

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映 像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員 の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養もともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 7号館3階 朝日研究室

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Teams コードと科目名 火曜5限: e9cb86b 21前-教職-010-教育心理学 (火5) -吉田 佐治子 木曜1限: ghkw1pp 21前-教職-018-教育心理学 (木1) -吉田 佐治子 木曜5限: h135mtc 21前-教職-023-教育心理学 (木5) -吉田 佐治子 金曜5限: lgnr3zw 21前-00-034-教育心理学 (金5) -吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜5限: 2021教育心理学 (火5) あるいは 21教心 (火5) 2021EPTUE5 木曜1限: 2021教育心理学 (木1) あるいは 21教心 (木1) 2021EPTU1
----	--

	<p>木曜5限：2021教育心理学（木5）あるいは 21教心（木5） 2021EPTHU5 金曜5限：2021教育心理学（金5）あるいは 21教心（金5） 2021EPPRI5</p> <ul style="list-style-type: none">・Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で、資料配付や授業内試験等は Moodle で行います。なお、授業は録画します（1週間で削除します）。・Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。・期末試験は希望者に返却します。・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
--	--

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	--

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【連絡方法】 授業についての連絡やOPPシートの提出は、Teamsを使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。</p> <p>【授業方法】 Moodle を使ったリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の学修内容を確認する 2. 前回の感想・疑問等を交流する 3. 本時の学修内容について自学する 4. 本時の学修内容について意見交流する 5. 本時の学習をまとめる <p>といった流れとなります。</p> <p>※以上は授業中に取り組む内容です。 これ以外に、事前学習と事後学習にも取り組みます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう？」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.20～22 及び P.94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.23～25 及び P.77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	

	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。																
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。																
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP. 147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。																
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP. 169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>哲学する教育原理</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領</td> <td>文部科学省</td> <td>東洋館出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>哲学する学校経営</td> <td>伊藤潔志 編著</td> <td>教育情報出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房																	
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版																	
3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー (OPPシート) の内容 (30%) や学期末試験の結果 (70%) 等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 (谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
2	日本における教育課程の歴史的変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
3	日本における教育課程の歴史的変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	
3				

評価方法(基準) 事前課題・レポートの内容(40%)と最終試験(60%)により総合的に評価する。

学生へのメッセージ 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。

担当者の研究室等 7号館3階(大野順子研究室)
連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp

備考 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択
授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。
授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します
事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカッション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい）。</p> <p>授業担当者は、高校現場で34年間にわたり、「授業」を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場ではなく、「作る」立場に転換した能動的な学びを経験することを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について捉えなおし、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「知識や技能を教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景や教室内の人間関係の把握を前提に、教室での突発的な出来事にも柔軟かつ的確に対処し、生徒からのリアクションを教材の文脈にもどしながら、意図的・計画的なカリキュラムを臨機応変に調整することによって、「教室を豊かな学びの場とする授業づくり」を追求する姿勢を身に付ける。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、上記(2)に関する専門性を個々に向上させるだけでなく、同僚間で相互に学び合う「同僚性」を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性について理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。</p> <p>第15回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。</p> <p>大学のHPやポータル・Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。</p> <p>当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3年次以降の授業で取り扱うこととしたい。</p> <p>授業形態</p> <p>(1) 授業はオンライン（動画配信・リアルタイム方式）で行う。ICTツールは Teams を使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。</p> <p>(2) 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダーを作り、そこに掲載する。プリントアウトするなり、電子ファイルとして整理するなりして、自分で管理すること。</p> <p>(3) Teams の機能を利用して、授業中に「活動（ワーク）の時間も設けるので、積極的に参加すること。</p> <p>(4) 毎回、Teams で「課題」の提出を求めるので、遅滞なく提出すること。</p>
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか 課題：指導方略	教科書第5章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第4章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第1章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第2章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	
6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調査	教科書第6章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）	
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、	教科書第7章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。	

			学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	時間。模擬授業の準備を行う（2時間）
8	8 教育の道具・素材・環境 (教材論)		講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	教科書第8章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)。
9	何をどう評価するか(評価論)		講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト	教科書第9章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論)		講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座：⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
11	授業・学習へのICTの活用 (教育の情報化論1)		講義：教育の情報化(その1)、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、学習環境を支えるICT環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
12	情報教育と校務の情報化(教育の情報化論2)		講義：教育の情報化(その2)、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められるICT活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカッション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)
13	インクルーシブな授業をつくる(インクルーシブ教育論)		講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDHからICFへの転換、特別支援教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカッション② 課題：PBL(問題解決型学習)問題点	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。
14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論)		講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく(2時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。
15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって/テスト		講義：すぐれた教師になるために、2つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざすオンラインテスト	教科書第11章、講義資料をよく読んでおく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、テスト(30%)により総合的に評価する。

学生への オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教

メッセージ	育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の研究室等	11号館11階(林研究室)
備考	授業外総学習時間を60時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池島 徳大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導と進路指導の意義と方法について、すべての児童・生徒の健全な発達を促す視点に立って、子どもの揺れ動く心理に触れながら、具体的な生徒指導、進路指導の実践を織り交ぜ、講義及び演習を行う。
到達目標	本授業の到達目標は、下記の5点である。 1) 生徒指導の意義とその機能について説明できる。 2) 進路指導の意義とその機能について説明できる。 3) 多様な児童・生徒理解の方法について説明できる。 4) いじめ、不登校など今日的な生徒指導上の諸問題の状況と対応の在り方について説明できる。 5) 校内の生徒指導・進路指導体制と関係機関との連携について説明できる。
授業方法と留意点	講義の他、グループ討議、ロールプレイング等の演習を取り入れて行う。 履修および予習・復習についての指示 生徒指導に関する知識の獲得、演習による対応スキルの獲得、共感能力の開発をキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。毎回の講義後、学習内容の振り返りとして2時間程度復習すること。また、授業終了前に次回の予習事項を提示しますので2時間程度事前学習にあてること。講義に関する質問等については、講義終了後に受け付けます。強い課題意識を持つての受講を期待します。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 参考文献 池島徳大「いじめ解決への教育的支援」日本教育新聞社 2013

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション		
	2	生徒指導の基本原則		
	3	児童生徒理解と生徒指導		
	4	新学習指導要領が示す「見方・考え方」の視点と生徒指導		
	5	生徒指導における教育相談の意義と進め方		
	6	いじめ問題に対するいじめなどのいじめなどのもめごと問題への具体的対応とその方法めごと問題への具体		
	7	いじめ問題に対する理解と今日的ないじめ(インターネット含む)問題への対応とその方法		
	8	不登校問題の現状と対応(1)		
	9	別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応		
	10	暴力行為の理解と対応		
	11	進路指導の意義と方法具体的な方法とその展開		
	12	アメリカのPBISの取組みから生徒指導の在り方を考える		
	13	進路指導の意義と具体的な方法とその展開		
	14	生徒指導・進路指導体制と関係機関との連携の意義と方法		
15	まとめ 生徒指導・進路指導の課題と展望			

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法	池島徳大監修・著	ほんの森出版
	2	「学校カウンセリングの理論と実践」ナカニシヤ出版 2007	佐藤修策総監修・池島徳大他著	ナカニシヤ出版 2007
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				

評価方法（基準）
 定期試験の成績（到達目標1・2・3・4・5）60%
 毎回の「感想ノート」の提出（到達目標1・2・3・4・5）20%
 レポート等の課題提出（到達目標4）20%
 課題のフィードバックについては、課題提出後の授業時に行います。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行われた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
----------	--

備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。
----	--

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 豊原 治彦, 吉井 英文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化した、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点もたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	授業方法は、オンデマンドの遠隔授業にて行う。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当: 久保 康之)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みみたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学において	事前: 事前学習課題の学習

			は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)	事後：レポートの提出
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関する資料を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1) オンデマンドのオンライン形式で実施します。 授業は授業予定日に合わせて配信されます。 2) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 3) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月12日(月)の授業は4月19日(月)午前0時まで提出)			
担当者の 研究室等	植物病理学研究室(久保)、応用昆虫学研究室(石川)、動物機能科学研究室(井上)、植物遺伝育種科学研究室(奥本)、食料・農業市場研究室(小野)、ゲノム生物学研究室(小保方)、作物科学研究室(川崎)、栄養薬理学研究室(喜多)、食農共生研究室(北川)、公衆栄養学研究室(黒川)、環境農学研究室(田中)、園芸科学研究室(寺林)、海洋生物学研究室(豊原)、食品加工学研究室(吉井)、応用微生物学研究室(和田)			
備考				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏、川崎 通夫、北村 祐人、佐野 修司、高木 大輔、玉置 雅彦、山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋9月（イネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。演習の最終回は、まとめとして、2回の合宿演習での体験と学びをもとに、課題「水田の多面的機能と価値について」と自由課題を与え、レポート提出させる。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>春合宿</td> <td>講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春合宿</td> <td>講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>春合宿</td> <td>討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>春合宿</td> <td>実習 野菜園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>春合宿</td> <td>見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>秋合宿</td> <td>講義 (移動中) コメの稈性と糯性について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り はさ架け</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>秋合宿</td> <td>討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 秋野菜の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 果樹園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>水田の多面的機能と価値について</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認	2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習	3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習	4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出	9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習	10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習	12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習	14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認																																																														
2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出																																																														
9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出																																																														

関連科目 土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習参加とレポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを体験してください。コロナ感染状況によっては、現地での実習 (田植え、稲刈り) ができなく可能性があります。その場合は Teams での課題提供 (課題提出は WebHolder 使用)、本学農場での見学および実習を行う予定です。

担当者の研究室等備考 園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (玉置、川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)、

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に10日間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	① 世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ② 演習に訪れた国・地域の農業成立の歴史的背景、農業技術、現状、課題について説明できる。
授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は夏期休暇期間中で、おおよそ10日間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容 (雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流) の説明	事前：シラバスの理解 事後：レポートの提出
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物 (動植物) についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
5	視察	民俗村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物 (一部再現物) を見学し、雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
6	中国の畜産業	豚をはじめとする中国の畜産業の現状と特徴についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
7	中国の稲作	中国全土の稲作の栽培技術、栽培品種、稲作文化についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
8	中国の作物栽培	雲南および中国での主要作物の栽培状況と栽培技術についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
9	中国の作物防除	作物、野菜、果樹等の作物栽培における病虫害被害の実態と防除技術についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
10	中国の野菜栽培	多種多様な野菜の類縁関係、品種特性、栽培技術、利用法および消費動向についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
11	雲南省の野菜	雲南省で栽培・消費されている野菜、ないし周辺の少数民族の野菜文化についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
12	雲南省の花弁	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
13	雲南省の茶栽培	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義と視察 (茶間屋など)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
14	視察	全国から集荷される青果物市場、花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後：全実習のレポート提出

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義内容に関するプリントを配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義内容に関するプリントを配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	講義内容に関するプリントを配布																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	現地での使用言語は、中国語、英語となっていますが、日本語でも会話は成立しますので安心してください。なお、コロナ禍が収束しない場合には、演習が中止になる場合があります。
担当者の	寺林敏 (農業生産学科 園芸科学研究室)、戴 容秦思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)

研究室等	
備考	

科目名	生物学	科目名 (英文)	Fundamentals of Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1008a0		

授業概要・目的	栄養学と食品学は、生物学の知識を基に構築されている。生物学の中のヒトに関係する部分を網羅的に学修する。具体的には、生命とはなにか、生物とはどのようなものか、細胞とはどのようなものかについて、体をつくる分子にはどのようなものがあるか、体の中で物質はどのように変化するか、遺伝子と遺伝はどのように関係しているか、ヒトの体はどのようにできているかについて、エネルギーはどのように獲得されるか、ヒトはどのように運動するか、体の恒常性はどのように維持されるか、ヒトは病原体とどのようにたたかうか、ヒトはどのように次の世代を残すか、ヒトはどのように進化してきたか、ヒトをとりまく環境はどのようになっているか、ヒトはどのような生き物かについての基礎的事項が説明できるようにすることを授業の目的とする。
到達目標	①生命とはなにか、生物とはどのようなものかについての基礎的事項が説明できる。 ②細胞とはどのようなものかについての基礎的事項が説明できる。 ③体をつくる分子にはどのようなものがあるかについての基礎的事項が説明できる。 ④体の中で物質はどのように変化するかについての基礎的事項が説明できる。 ⑤遺伝子と遺伝はどのように関係しているかについての基礎的事項が説明できる。 ⑥ヒトの体はどのようにできているかについての基礎的事項が説明できる。 ⑦エネルギーはどのように獲得されるかについての基礎的事項が説明
授業方法と留意点	第2回以降は、教材・課題提供型授業 (Microsoft Teams を使用) として実施する。 受講者は Teams 内の各回のチャンネルに掲載される指示に沿って受講してください。
科目学習の効果 (資格)	「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生物学とはどのような学問か	生物学の扱う内容 生物学と人間 生物学の方法 生物学の歴史	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	2	生命とはなにか、生物とはどのようなものか	生物の基本的な性質 生物の階層性 生物と生命	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	3	細胞とはどのようなものか	細胞の大きさと構造 細胞の内部構造 細胞骨格と細胞分裂	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	4	体をつくる分子にはどのようなものがあるか	水の重要性 アミノ酸とたんぱく質 核酸と糖質 脂質 生体内の微量成分	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	5	体の中で物質はどのように変化するか	酵素の働きと性質 グルコースからのエネルギーの獲得 その他の栄養素とエネルギー 生体高分子の合成	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	6	遺伝子と遺伝はどのように関係しているか	遺伝子の本体としての DNA 翻訳とたんぱく質の行方 DNA の複製と突然変異 遺伝の法則	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	7	ヒトの体はどのようにできているか	細胞と組織 脊椎動物の組織 生物における階層性	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	8	エネルギーはどのように獲得されるか	酵素の取り込みと利用 食物の利用とエネルギーの生産	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	9	ヒトはどのように運動するか	感覚系 神経系 筋肉の収縮	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	10	体の恒常性はどのように維持されるか	自律神経系 ホルモン ホメオスタシスの実際	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	11	ヒトは病原体とどのようにたたかうか	免疫とはどのようなことか 免疫担当細胞とサイトカイン 移植免疫と免疫に関わる病気 病原体の種類と病気	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	12	ヒトはどのように次の世代を残すか	ヒトのライフサイクル ヒトの生殖と初期発生 器官形成と細胞分化 出産と乳幼児期	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	13	ヒトはどのように進化してきたか	生命の起源と初期の進化 脊椎動物の進化 ヒトの進化とヒトの特性	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	14	ヒトをとりまく環境はどのようになっているか	環境とニッチ 食物連鎖と物質循環 環境とヒトの関わり	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
	15	ヒトはどのような生き物か	脳の発達に基づく性質 文化の進化 ヒトの未来	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
関連科目	全ての専門コア科目			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヒトを理解するための 生物学</td> <td>八杉 貞雄 (著)</td> <td>裳華房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヒトを理解するための 生物学	八杉 貞雄 (著)	裳華房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ヒトを理解するための 生物学	八杉 貞雄 (著)	裳華房														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ワークブックヒトの生物学</td> <td>八杉 貞雄 (著)</td> <td>裳華房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ワークブックヒトの生物学	八杉 貞雄 (著)	裳華房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ワークブックヒトの生物学	八杉 貞雄 (著)	裳華房														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業期間内に課す課題 (50%)、期末に課す定期テスト (50%) で評価する。																
学生への メッセージ	一生懸命勉強してください。																
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 3F 応用栄養学研究室 (325)																
備考																	

科目名	生物学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1009a0		

授業概要・目的	本演習では、「生物学」の講義と連動し、栄養学と食品学を学ぶうえで重要な、ヒトを中心とした生物学の演習問題に取り組み、基礎的理解を深めるとともに応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、健康や環境にまつわる種々の問題について自分なりの考えを構築し、生物現象に関する理解を深めることを目的とする。
到達目標	①生命とはなにか、生物とはどのようなものかについて、演習を通して説明することができる。 ②細胞とはどのようなものかについて、演習を通して説明することができる。 ③体をつくる分子にはどのようなものがあるかについて、演習を通して説明することができる。 ④体の中で物質はどのように変化するかについて、演習を通して説明することができる。 ⑤遺伝子と遺伝はどのように関係しているかについて、演習を通して説明することができる。 ⑥ヒトの体はどのようにできているかについて、演習を通して説明することができる。 ⑦
授業方法と留意点	演習ではワークブック形式の教科書を用いる。「生物学」の講義と連動して、講義に関連した項目のワークブックの問題を解く。第2回以降は、教材・課題提供型授業 (Microsoft Teams を使用) として実施する。受講者は Teams 内の各回のチャネルに掲載される指示に沿って、小テストを受け、解説 (動画) を視聴しながら課題に取り組み、提出する。質問に対しては、次回以降の授業で解説するか、Teams 内で随時回答する。
科目学習の効果 (資格)	「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	生物学とはどのような学問か	生物学の扱う内容 生物学とヒト 生物学の方法 生物学の歴史 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
2	生命とはなにか、生物とはどのようなものか	生物の基本的な性質 生物の階層性 生物と生命 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
3	細胞とはどのようなものか	細胞の大きさと構造 細胞の内部構造 細胞骨格と細胞分裂 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
4	体をつくる分子にはどのようなものがあるか	水の重要性 アミノ酸とタンパク質 核酸と糖質 脂質と微量成分 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
5	体の中で物質はどのように変化するか	酵素の働きと性質 グルコースからのエネルギーの獲得 その他の栄養素と生体高分子の合成 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
6	遺伝子と遺伝はどのように関係しているか	遺伝子の本体としての DNA 翻訳とタンパク質の行方 DNA の複製と突然変異 遺伝の法則 遺伝子工学とヒトの遺伝子の改変 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
7	ヒトの体はどのようにできているか	細胞と組織 脊椎動物の組織 生物における階層性 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
8	エネルギーはどのように獲得されるか	酸素の取り込みと利用 食物の利用とエネルギーの生産 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
9	ヒトはどのように運動するか	感覚系 神経系 筋肉の収縮 高次神経活動 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
10	体の恒常性はどのように維持されるか	自律神経系 ホルモン ホメオスタシスの実際 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
11	ヒトは病原体とどのようにたたかうか	免疫とはどのようなことか 免疫担当細胞とサイトカイン 移植免疫と免疫に関わる病気 病原体の種類と病気 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
12	ヒトはどのように次の世代を残すか	ヒトのライフサイクル ヒトの生殖と初期発生 器官形成と細胞分化 出産と乳幼児期 に関する演習問題を解く。	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する	
13	ヒトはどのように進化して	生命の起原と初期の進化	事前: 「生物学」の講義内容を復習しておく	

		きたか	脊椎動物の進化 ヒトの進化とヒトの特性、進化の自然選 択説 に関する演習問題を解く。	事後：解けなかった問題を復習する
	14	ヒトをとりまく環境はどの ようになっているか	環境とニッチ 食物連鎖と物質循環 環境とヒトの関わり に関する演習問題を解く。	事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する
	15	ヒトはどのような生き物か	脳の発達に基づく性質 文化の進化 ヒトの未来 に関する演習問題を解く。	事前：「生物学」の講義内容を復習しておく 事後：解けなかった問題を復習する
関連科目	生物学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワークブック ヒトの生物学	八杉 貞雄	裳華房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヒトを理解するための生物学	八杉 貞雄	裳華房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回実施する小テスト(30%)、演習の内容(ルーブリック評価・30%)、学期末に提出するワークブック(40%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	生物学の知識を定着させるためには、問題演習が不可欠です。自分でしっかりと考え、分からないところは質問・復習をして、着実に進んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	基礎栄養学研究室 (324)			
備考				

科目名	化学	科目名 (英文)	Fundamentals of Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1010a0		

授業概要・目的	<p>化学的知識・思考は、食品学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を学修し、専門課程・卒業研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。また、同時期開講の「化学演習」において、「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて理解する。</p> <p>SDGs 2, 3, 4</p>
到達目標	<p>① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置が説明できる。 ③ 化学結合が説明できる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質を説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業では受講者の主体的な学びを通して、専門科目で必要な化学の基礎知識を身につける。オンライン（オンデマンド方式）授業では、化学の基礎知識を確実なものにするために、教科書に沿った各章の動画を視聴する。この動画を視聴後、各章の理解度確認テスト、及び小テストを期限内におこない、その結果をMoodleに提出する。また、学修した内容についてふりかえりし、その内容をふりかえりシートにまとめ、Moodleに提出する。</p> <p>事前学習：受講者は次回の授業で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p> <p>事後学習：受講者はMoodleにアクセスし、本日学修した講義内容の復習、理解度確認テスト、小テスト及び、ふりかえりシートを実施する。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>本授業で化学を学ぶことにより、無機化学および有機化学の基礎的知識や考え方を主体的に身につけることができる。 食品衛生管理者及び食品衛生監視員（任用資格）の資格取得に係る科目</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 自己紹介、ABD 読書術などを説明する。	事前：第1回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。
	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、同素体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性などについて学ぶ。	事後：第1回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
2	原子の電子構造	原子の電子殻 軌道の形、電子配置などについて学ぶ。 原子軌道、混成軌道などについて学ぶ。	事前：第2回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第2回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
3	周期表と元素	典型元素、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質などについて学ぶ。	事前：第3回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第3回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
4	化学結合と分子	化学結合と電気陰性度などについて学ぶ。イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式などについて学ぶ。	事前：第4回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第4回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
5	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、アボガドロ定数、濃度、物質の三態などについて学ぶ。	事前：第5回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第5回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
6	溶液の化学	溶解度、浸透圧、コロイドなどについて学ぶ。	事前：第6回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第6回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
7	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液の pH などについて学ぶ。	事前：第7回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第7回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
8	酸化還元反応	酸化と還元、酸化還元反応などについて学ぶ。	事前：第8回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。

				事後：第8回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
9	無機化学のまとめ	無機化学(第1回～第8回まで)の復習 今までの8項目について、理解不十分な項目について、学習する。 受講者が理解不十分な項目について、8項目からそれらの項目を選択し、自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。		事前：第1回～第8回の授業および小テストを復習する。 事後：第9回化学の授業講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
10	有機化合物の構造	有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物などについて学ぶ。		事前：第10回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第10回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
11	異性体と立体化学	異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などを学ぶ。		事前：第11回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第11回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
12	有機化学反応	有機化合物の起こす求核反応・求電子反応などについて学ぶ。		事前：第12回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第12回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
13	糖類と脂質	単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて学ぶ。		事前：第13回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第13回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
14	アミノ酸とタンパク質	炭水化物、アミノ酸、たんぱく質などの化学構造について学ぶ。		事前：第14回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第14回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。
15	核酸—DNAとRNA	核酸の構造、遺伝子とRNAの構造、遺伝子、RNAの機能などについて学ぶ。		事前：第15回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第15回化学の講義内容の復習、理解度確認テストおよび化学小テスト及び、ふりかえりシートを行う。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コ・メディカル化学	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義時に配布する資料		
	2			
	3			

評価方法(基準) 各授業の理解度確認テスト(10%)、ふりかえりシートの提出(10%)、小テスト(20%)および期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。なお、取り組み状況(受講態度、各授業でのテスト受験、課題提出など)が不良の場合は、最大10%減点する場合がある。

学生へのメッセージ 2021年度化学は、オンライン(オンデマンド)方式で行いません。化学のTeamsコードの入力、Moodleの自己登録キーなどの入力をして下さい。授業の指示は、Teams連絡用のチャンネルで行いますので、必ず、Teamsの連絡用チャンネルを確認してください。
この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学習、小テストなどを通して、わからないところを解決してから、次に進んでいきましょう。

担当者の研究室等 枚方キャンパス農学部8号館 2F 225号室

備考

科目名	化学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1011a0		

授業概要・目的	化学的知識・思考は、食品学、食品衛生学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確かなものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した物質の成り立ち、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置について問題を通して説明することができる。 ③ 化学結合について問題を通して説明することができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算問題を解くことができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質について問題を通して説明できる。
授業方法と留意点	本講義では、web方式により演習を通して化学の基礎知識を深める。具体的には、その日の授業内容に沿った解説、演習問題をwebで配信し、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説をweb方式で行う。講義後にはその日の内容の小テストおよび振り返りレポートまとめて決められた日時までにwebによって提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	本講義で化学演習の演習を自ら解くことにより、受講者は化学の基礎知識や学ぶ方法を主体的に身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子の構造、原子核と同位体、質量数、放射能と放射線などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第1回の授業内容を予習しておく。 事後：第1回的小テストを行う。
2	原子の電子構造	原子の電子殻、軌道の形、電子配置、価電子などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第2回の授業内容を予習しておく。 事後：第2回的小テストを行う。
3	周期表と元素	電子配置と周期表、典型元素と遷移元素、周期性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第3回の授業内容を予習しておく。 事後：第3回的小テストを行う。
4	化学結合と分子	イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第4回の授業内容を予習しておく。 事後：第4回的小テストを行う。
5	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第5回の授業内容を予習しておく。 事後：第5回的小テストを行う。
6	溶液の化学	溶解と溶媒和、溶解度、浸透圧、コロイドなどについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第6回の授業内容を予習しておく。 事後：第6回的小テストを行う。
7	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpHなどについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第7回の授業内容を予習しておく。 事後：第7回的小テストを行う。
8	酸化還元反応	酸化と還元、酸化還元反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第8回の授業内容を予習しておく。 事後：第8回的小テストを行う。
9	無機化合物のまとめ	基礎化学(第1回～第8回まで)の理解不十分な箇所の演習および教師による解説を通じた復習を行う。	事前：第1回から9回の授業内容を復習しておく。 事後：第9回的小テストを行う。
10	有機化合物の構造	有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第10回の授業内容を予習しておく。 事後：第10回的小テストを行う。
11	異性体と立体化学	異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第11回の授業内容を予習しておく。 事後：第11回的小テストを行う。
12	有機化学反応	化学反応とエネルギー、反応速度、求核置換反応、求電子置換反応、付加反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第12回の授業内容を予習しておく。 事後：第12回的小テストを行う。
13	糖類と脂質	単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第13回の授業内容を予習しておく。 事後：第13回的小テストを行う。
14	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸、たんぱく質などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第14回の授業内容を予習しておく。 事後：第14回的小テストを行う。
15	核酸-DNAとRNA	核酸の構造、遺伝子とRNAの構造、遺伝子、RNAの機能などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第15回の授業内容を予習しておく。 事後：第15回的小テストを行う。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コ・メディカル化学	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
2				
3				

評価方法 (基準) 各講義の学習確認小テスト30%、振り返りシート10%及び定期試験60%で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ この授業は自らが主体的に演習を解く科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して、進んで行きましょう。

担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320
備考	

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF2012a0		

授業概要・目的
公衆衛生学とは、社会の組織的な取り組みを通じて疾病を予防し、寿命を延ばし、健康を増進する科学および技術である。本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生全般について学修するなかで、健康および公衆衛生の概念や保健・医療・福祉の制度、健康増進や疾病予防の考え方や取り組み、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理などについて理解する。具体的には、健康や公衆衛生の概念と歴史、わが国の健康の現状と医療保険制度を学修したうえで、食品保健、生活習慣病対策、感染症対策と母子保健、老人保健、環境保健など多岐にわたる公衆衛生分野の理解を深め、公衆衛生における栄養の関わりとともに、疫学の方法についても学修する。

- 到達目標
- ① 公衆衛生学の概略を理解し、個人及び集団における健康と疾病、社会と環境、栄養との関係の重要性について説明できる。
 - ② わが国における保健、医療、福祉及び介護の諸制度の内容について説明できる。
 - ③ わが国の健康増進や疾病予防の現状と問題点を理解し、説明できる。
 - ④ 主な健康指標や健康情報を理解し、それらの情報の利用や処理、管理ができるようになる。
 - ⑤ 疫学の基礎を理解し、疫学的手法について説明できる。

授業方法と留意点
下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義では、クラス内での議論などを通じて理解をより深める。また各講義前に、前回の講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。

科目学習の効果 (資格)
管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる
管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生学序論	健康と公衆衛生の概念や歴史を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	保健統計と医療資源	各種保健統計 (人口統計、平均余命、有訴者率、受療率等) と医療に必要な資源を解説し、健康情報の利用方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療制度	医療制度と医療システムについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	地域医療制度	わが国の医療制度における国、地方自治体の役割を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	母子保健	母子保健法を中心に、母子保健の概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	学校保健	学校保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	老人保健と介護保険	高齢者に対する医療制度と法律、介護保険について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	産業保健	産業保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	環境保健	環境衛生と環境保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	食品保健	国民栄養とその対策、食中毒について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	感染症と国際保健	感染症の定義、分類、各種法律 (感染症法、予防接種法等)、世界の保健問題を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	生活習慣と生活習慣病	身体活動や食事、喫煙、飲酒、ストレスなど各種生活習慣と生活習慣病とその予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	疫学	疫学の方法と各種指標について解説し、健康情報の処理の方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	疫学的手法	疫学研究における各種手法とスクリーニングについて解説し、健康情報の管理の方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	EBM と疫学研究	疫学研究の倫理と EBM、EBM に基づいた対策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目
健康管理概論、医療福祉論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定しない		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向・最新版		厚生労働統計協会
2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
3			

評価方法 (基準)
各講義の最初に、前回の講義の学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト (評価割合 20%) および定期試験 (評価割合 80%) で評価し、60% 以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
農学部 8 号館 2F 教員室 (222)

備考

科目名	健康管理概論	科目名 (英文)	Introduction to Health Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF2013a0		

授業概要・目的	健康管理概論は、管理栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養実践活動を営むための基礎科学である。本授業では、公衆栄養活動を科学的根拠に基づいて行うことに対する理解を深めるための知識や考え方を身につけることを目的とする。また、管理栄養士として理解が必要な疾患、特に生活習慣病の病態などを含め講義する。具体的には、健康について概観した上で各種健康づくりと健診・検診について学修する。さらに食事や運動などの生活習慣と生活習慣病との関連性を解説する。
到達目標	① 健康の定義と健康づくりのあり方を理解し説明できる。 ② わが国における健康づくり政策について、実施主体別に説明できる。 ③ 疾病予防の観点で各種健診や検診について理解し、説明できる。 ④ 生活習慣病の発症機序や予防について理解を深め、説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	主な健康指標	主要な健康指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	健康づくり政策	国レベル、地方レベルで施行されている各種健康づくり政策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	予防	一次予防、二次予防、三次予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	健康づくりと保険者	健康診断の実態と、健康管理における保険者の役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	健康づくりと産業保健	企業における健康づくりについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	メタボリックシンドロームと健康	肥満やメタボリックシンドロームと健康について解説し、特定健康診査、特定保健指導について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	がん対策とがん検診	各種がん対策と市町村や職域で実施しているがん検診について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	歯科保健と健康	歯科保健の実態と健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	生活習慣と健康 (1) 食生活と身体活動	生活習慣のうち、食生活と身体活動が健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	生活習慣と健康 (2) 喫煙、飲酒、睡眠、ストレス	喫煙や飲酒、睡眠、ストレスが健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	生活習慣病 (1) 高血圧性疾患	主要な生活習慣病のうち高血圧性疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	生活習慣病 (2) 脳血管疾患	主要な生活習慣病のうち脳血管疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	生活習慣病 (3) 心疾患	主要な生活習慣病のうち心疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	生活習慣病 (4) がん	主要な生活習慣病のうちがんの概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学、医療福祉論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学・最新版	鈴木庄晃	南江堂
	2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。各講義の視聴 (対面の場合は出席、10%)、毎回実施の小テスト (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 80%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------------	-----------------------

科目名	解剖生理学	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1015a0		

授業概要・目的	本講義では、生体の構造（解剖学）および機能（生理学）を学修し、人体の精密かつ複雑な構造と機能の基本を、細胞、組織、臓器・器官、器官系及び個体のレベルで理解することを目的とする。個体の発生・成長・老化の過程や、臓器・器官の協調による生体調節の統合システムについて理解を深め、生体の恒常性を維持する機構を学修する。授業担当者の坂根は、大学病院、地域の基幹教育病院における30年以上の臨床経験を有し、学生および研修医の指導を行ってきた。本講では栄養学を学ぶ基礎となる生命の仕組みを理解する能力を養うとともに、診療の現場に役立つ、管理栄養士国家試験にも対応できる、実践的な知識を修得することを目標としている。
到達目標	① 人体を構成する臓器・器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。 ② 臓器・器官を構成する特徴的な組織・主な細胞の機能について説明できる。 ③ 細胞の基本構造と、それを構成する細胞内小器官について説明できる。 ④ 生体内情報伝達システム、細胞間情報伝達システムについて説明できる。 ⑤ 体内環境の恒常性維持機構（体液組成・血圧・呼吸・体温など）について説明できる。 ⑥ 人体の防御機構について説明できる。 ⑦ 栄養素の消化吸収について説明できる。 ⑧ 人体に関する知識を今後学修す
授業方法と留意点	オンライン（オンデマンド方式）で講義を行う。ICTツール（Teams）を用いて提供するパワーポイント（PPT）のビデオを自宅で視聴し、適宜教科書の該当箇所を参照しながら学修する。毎回、復習のために、国家試験問題に準じた内容の「まとめのテスト」を出題し、ICTツール（Moodle）を用いて所定の期限内の回答を求める。並行して、関連する内容で実施する「解剖生理学実習」で知識の定着化を図る。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患と病態に関する理解は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 解剖生理学（基礎医学）を学ぶための心得 細胞と組織	授業のすすめ方、ICTツールの使用法と注意点 評価の方法 細胞と組織の構造と機能	事後学習：Moodleによるまとめのテスト（60分） 授業のPPT復習、教科書の該当項目復習（180分）
2	骨格系・筋肉系	骨・筋肉の構造と機能 肉眼所見（骨格模型・人体模型）と組織所見の対応	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
3	消化器系 1 消化管	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
4	消化器系 2 肝胆膵	肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
5	循環器系	心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
6	呼吸器系	鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
7	泌尿器系	腎臓・尿路系の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
8	生殖器系・発生	女性生殖器・男性生殖器の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
9	内分泌系	視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵臓（内分泌）の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
10	中枢神経系 1	大脳、間脳、脳幹、小脳の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）
11	中枢神経系 2 末梢神経 1	脊髄の構造と機能 脊髄神経・脳神経の構造と機能	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分）

				事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)																
	12	末梢神経 2	自律神経系の構造と機能 神経伝達の仕組み	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)																
	13	神経感覚器系 皮膚感覚器系	平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能 温痛覚器・皮膚の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)																
	14	血液・造血管系	血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)																
	15	生体防御系	免疫・アレルギー、生体防御機構	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)																
関連科目	解剖生理学実習 (前期) 臨床医学概論 (後期) 臨床病態学 (2年次前期)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能：解剖生理学</td> <td>荒木英爾、藤田守 他</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田守 他	建帛社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田守 他	建帛社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学</td> <td>志村二三夫、岡 純、山田和彦</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義の学習確認、実習で修得した内容も含めた、まとめの小テストや課題を授業終了時に出題する。小テスト・課題は指定期間内に ICT ツール (Moodle) で解答する。小テストと課題 (評価割合 40%)、および期末試験 (評価割合 60%) により、合計 60%以上で合格とする。																			
学生へのメッセージ	管理栄養士をめざす皆さんが、是非とも知っておくべき医学の基礎知識を興味をもって学んでもらいたいと思います。																			
担当者の研究室等	臨床医学研究室 (224)																			
備考																				

科目名	臨床医学概論	科目名 (英文)	Introduction to Clinical Medicine
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF1016a0		

授業概要・目的	本講義では、管理栄養士として働くために必要な臨床医学の基礎知識を修得することを目的とする。1年次前期「解剖生理学」で学修した人体の構造と機能に関する知識を基に、疾患や病態について理解し、生体制御機構と疾患の関連、診断と治療の基本的な考え方を修得する。問診、症候から病歴聴取、臨床検査など疾患診断に至るプロセスを学ぶとともに、医療に従事する者としての基本的な心得として、診療情報の取り扱い、医の倫理や医療安全についても学修する。授業担当者の坂根は、総合内科専門医、内分泌代謝科専門医として30年以上の診療経験と、学生実習や臨床研修医の指導経験を有しており、臨床医の視点で、管理栄養士に求められる臨床医学に関する実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 主要な症候から診断に至る過程を理解する。 ② 主要な疾患の検査・診断及び治療法について理解する。 ③ 診療録 (カルテ) の意義や記載方法について理解する。 ④ 医療倫理や医療安全の実態について理解する。
授業方法と留意点	第1回～4回はTeamsによるオンライン授業を実施、第5回から対面式に変更する。授業で用いるパワーポイント(PPT)の内容を、ICTツール(Teams)を用いて事前配布し、教科書の該当箇所を適宜参照しながら予習する。授業当日にもハンドアウトを配布し、PPT内容について追加の説明と、関連事項や最新の知見について解説を加える。毎回、ICTツール (Moodle) でまとめの小テストを出題し、期限内の解答を求める。小テストの評価は、期末成績に反映させる。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、主要な疾患と病態に関する知識は資格取得に必須である。管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 病気とは何か	授業のすすめ方 病気と疾患、疾患の種類、遺伝背景や環境因子との関連を学ぶ	事後学習：授業のPPT復習、教科書の該当項目復習 (180分) Moodle まとめ的小テスト (60分)
2	症候と診察法	症状、症候についての問診 (医療面接) から、視診、聴診、打診、神経診察など一連の診察法について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
3	臨床検査の意義	血液、尿、生化学検査、胸部X線、CT検査など放射線検査、心電図など生理検査の意義と、特殊検査の適応、鑑別診断について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
4	診療録の記載	診療録 (カルテ) 記載における基本的事項、個人情報の保護や診療情報の共有など留意すべき点を学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
5	神経系と生体制御	中枢神経、末梢神経、自律神経による制御システムと疾患の関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
6	内分泌と生体制御	内分泌系のフィードバック機構と病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
7	免疫系と生体制御	免疫系のネットワークによる生体制御の観点から疾患の発症を学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
8	循環器	循環動態を評価する生理検査と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
9	消化器	消化吸収を評価するための臨床検査と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
10	呼吸器	呼吸機能検査と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
11	腎・泌尿器	腎機能の評価法と病態との関連について学ぶ	前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分) 事後学習：PPTおよび教科書で授業内容の復習 (90分) Moodle まとめ的小テスト (30分)
12	血液	血液疾患の検査と病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120分)

				事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）	
	13	医の倫理	医療における倫理上の課題について学ぶ	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） 課題（30分）	
	14	終末期医療と緩和ケア	終末期医療、アドバンスケアプランニング、緩和ケアの実際について学ぶ	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） 課題（30分）	
	15	医療安全	医療事故、インシデント報告、院内感染対策など、医療現場における安全管理体制について学ぶ	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） 課題（30分）	
関連科目	解剖生理学（前期） 解剖生理学実習（前期）				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち		田中清	中山書店
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	疾患の成り立ち：臨床医学 第4版		田中明/加藤昌彦	建帛社
	2	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学		羽生大記/河手久弥	中山書店
	3				
評価方法（基準）	学期末に、国家試験の出題形式に準じて期末試験を実施する。授業毎の小テストあるいは課題（評価割合 40%）と学期末試験成績（評価割合 60%）により、合計 60%以上をもって合格の基準とする。				
学生へのメッセージ	前期の「解剖生理学」で修得した基礎知識を基に、実際に病気の診断に至る過程を勉強します。				
担当者の研究室等	臨床医学研究室				
備考					

科目名	生化学	科目名 (英文)	Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1017a0		

授業概要・目的
 生命現象を化学的に探究するのが生化学である。生体の構成成分と代謝を理解するための元素、化合物の特徴に始まり、細胞の構造、糖質、脂質、たんぱく質 (アミノ酸)、核酸などの性質、酵素反応の特徴、生体エネルギー論と、授業を展開していく。次に、解糖系、クエン酸回路 (TCA 回路)、β-酸化、電子伝達系・酸化リン酸化、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路を中心とした三大栄養素の代謝と、生体内におけるグリコーゲン、トリグリセリド及びコレステロールの生合成を学修する。さらに、遺伝情報の発現とたんぱく質合成並びに免疫システムの基礎を学修する。
 国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。

- 到達目標**
- ① 三大栄養素の構造的特徴についての基礎的事項が説明できる。
 - ② 生体エネルギーについての基礎的事項が説明できる。
 - ③ 三大栄養素の代謝とその関係性について説明できる。
 - ④ 核酸・遺伝現象・たんぱく質合成についての基礎的事項が説明できる。
 - ⑤ 酵素反応の基礎的事項が説明できる。
 - ⑥ ホルモンとその受容体についての基礎的事項が説明できる。
 - ⑦ 免疫に関する基礎的事項が説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)
 生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取得する上でも、とても重要な基礎知識です。
 管理栄養士国家試験受験資格、

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	三大栄養素の構造と特徴①	糖質の構造と特徴について アミノ酸の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	三大栄養素の構造と特徴②	たんぱく質の構造と特徴について 脂質の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	細胞と細胞内小器官	細胞、細胞質、各細胞内小器官の特徴と働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	生体エネルギー	ATP の生成を中心とした生体エネルギー論について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	糖質の代謝①	解糖系、TCA 回路と、それに続く電子伝達系・酸化リン酸化について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	糖質の代謝②	グリコーゲン合成、糖新生、ウロンサン回路、五炭糖リン酸回路について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	脂質の代謝①	β-酸化と TCA 回路を中心とした脂質代謝について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	脂質の代謝②	脂肪酸の合成とコレステロール代謝について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	たんぱく質・アミノ酸の代謝①	アミノ基転移反応と酸化的脱アミノ反応について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	たんぱく質・アミノ酸の代謝②	尿素回路について 三大栄養素の代謝の関係性について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	核酸の基礎	DNA、RNA などの核酸の基礎について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	遺伝子発現とたんぱく質の合成	遺伝子発現とたんぱく質の合成について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	酵素反応の特徴①	酵素の構造的特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	酵素反応の特徴②, ホルモン	酵素反応の基礎的事項について ホルモンの作用機構について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	免疫の基礎	液性免疫、細胞性免疫といった免疫機構の基礎について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生化学ガイドブック改訂第3版増補	遠藤克己、三輪一智	南江堂
2	健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版	奥 恒行、柴田克己 編集	南江堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)
 各講義前に、前回の講義の学習確認小テストを行う (15 回目は講義の最後に実施)。毎回実施する小テスト (15 回：評価割合 40%) および定期試験 (評価割合 60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
 遅刻は厳禁です。毎回 Moodle を使って、講義開始時に小テストを行います。講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分かり易く説明します。予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等
 薬学部 1 号館 5 階大塚教授室

科目名	微生物学	科目名 (英文)	Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加藤 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1018a0		

授業概要・目的	様々な微生物 (細菌、ウイルス、寄生虫など) のうち、人間にとって有用・有益な微生物と、食中毒や食品介在性感染症の原因となる微生物の構造、増殖機構、汚染源、伝播機構などの基本的知識並びにそれらによる感染症の病態や予防に関する知識を得ることを目的とする。また、栄養管理上問題となる感染性疾患 (肝炎、腎障害など) の概略についても学修する。
到達目標	① 微生物の基本的な構造ならびに性質を学び、食品微生物や病原微生物の特徴を学修する。 ② 食品加工などに利用される微生物の作用や疾病における発症メカニズムについて理解する。 ③ 食品の微生物管理や食品を介する感染症の発生予防に関する実践的な知識を身につける。
授業方法と留意点	PowerPoint を用いて解説する。授業で使用する PowerPoint ファイルを PDF に変換して Teams や WebFolder にアップロードし、学生が印刷又はパソコンなどで利用できるようにする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かせる。 食品・飲料の品質や安全性に影響する微生物の特徴と、それらの防除について、人体と微生物の関わりや感染症について理解するために必要な基礎的知識を身につけることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微生物の基礎	微生物とは何か? 微生物の発見と微生物学の歴史について概説する	事前: 教科書の第1章を読んでおく 事後: 講義内容と第1回小テストの理解
2	微生物の分類	微生物分類の基礎として、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫の違いについて概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第2回小テストの理解
3	生活と微生物	微生物を利用した食品や医薬品などの生産、食品の変敗や感染症などについて概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第3回小テストの理解
4	微生物の取扱い	微生物の検出、分離、培養について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第4回小テストの理解
5	微生物制御と衛生管理	有用微生物を適切に利用し、有害微生物による被害を防ぐ理論と技術について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第5回小テストの理解
6	病原微生物	感染症や食中毒を引き起こす微生物について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第6回小テストの理解
7	生体防御機構	生体防御に関わる器官、細胞、分子について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第7回小テストの理解
8	感染症の治療	感染症 (食品由来を含む) の治療について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第8回小テストの理解
9	感染症の予防	感染症 (食品由来を含む) の予防について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第9回小テストの理解
10	ウイルスの特徴	ウイルスの構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第10回小テストの理解
11	代表的な病原性ウイルス	代表的なウイルス感染症 (食品由来を含む) について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第11回小テストの理解
12	細菌の特徴	細菌の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第12回小テストの理解
13	代表的な病原性細菌	代表的な細菌感染症について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第13回小テストの理解
14	真菌、原虫、寄生虫の特徴	真菌、原虫、寄生虫の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第14回小テストの理解
15	代表的な病原性真菌、原虫、寄生虫	代表的な真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読んでおく 事後: 講義内容と第15回小テストの理解

関連科目	微生物学実験、分子生物学
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微生物学 (第3版)	小林秀光・白石淳 編	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)	各授業の最初に学習確認のための小テストを行う。この毎回実施する小テスト (40%) 及び期末テスト (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	微生物学は生活に密着した学問です。日々の暮らしのなかで微生物の存在を意識しながら学習すると、楽しく学べると思います。
-----------	--

担当者の研究室等	農学部 8 号館 3F 教員室 (308)
----------	-----------------------

備考	
----	--

科目名	分子生物学	科目名 (英文)	Molecular Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2019a0		

授業概要・目的	遺伝子発現と栄養の関係を理解するための基本的知識として、遺伝子の構造、DNAの塩基配列、複製と修復、リボ核酸 (RNA) の合成 (転写)、たんぱく質の合成 (翻訳) と翻訳後修飾、分解などの一連の遺伝子情報の流れとその調節機構を理解することを目的とする。具体的には、がんや生活習慣病を含む様々な疾患と遺伝子多型の関連や、遺伝形質と栄養の相互作用を学修する。また、遺伝子組み換え技術の原理を理解し、臨床医学や創薬・バイオテクノロジー産業への応用に関する基本的知識を修得する。
到達目標	① 分子生物学についての基礎的知識を身につける。 ② 疾患と遺伝子、遺伝子と栄養の関わりについて理解する。 ③ 遺伝子組み換え技術について理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に講義形式で授業を進める。ポイントをまとめたスライド映写や、適宜プリントも配布する。各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に対応するべく、生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになる。また、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本事項を理解できるようになる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	細胞とその構成成分	生命の基本単位である細胞とその構成成分について	毎回の授業時に指示する
2	ゲノムの構造と遺伝子	生物の遺伝情報を支配しているゲノムとゲノムの中にある遺伝子の成り立ちについて	毎回の授業時に指示する
3	遺伝情報の発現①転写	DNA から mRNA へ情報が写し取られるメカニズムについて	毎回の授業時に指示する
4	遺伝情報の発現②翻訳	mRNA の情報に基づきたんぱく質が合成されるメカニズムについて	毎回の授業時に指示する
5	遺伝情報の複製	遺伝情報がどのように複製され、維持されるかについて	毎回の授業時に指示する
6	遺伝的組換え	遺伝子組み換え技術の原理と応用について	毎回の授業時に指示する
7	たんぱく質の構造と機能	生命機能に不可欠な分子であるたんぱく質の構造と特性について	毎回の授業時に指示する
8	細胞のシグナル伝達	細胞内外のシグナルが伝達されるしくみについて	毎回の授業時に指示する
9	細胞周期	細胞が増殖するしくみについて	毎回の授業時に指示する
10	受精と発生	受精と発生のしくみについて	毎回の授業時に指示する
11	がんと老化	がんが発生するしくみ、細胞や個体が老化するしくみについて	毎回の授業時に指示する
12	免疫と神経	免疫や神経をつかさどる細胞間コミュニケーションのしくみについて	毎回の授業時に指示する
13	疾患と遺伝子	多因子疾患としての生活習慣病について	毎回の授業時に指示する
14	遺伝子と栄養の関わり	食事による遺伝子発現の変化、遺伝子多型と栄養について	毎回の授業時に指示する
15	分子生物学的技術とその応用	基礎的な研究手法と応用技術について	毎回の授業時に指示する

関連科目	微生物学、微生物学実験
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	好きになる分子生物学 (KS 好きになるシリーズ)	萩原清文 著、多田富雄 監修	講談社
2				
3				

評価方法 (基準)	各講義前に前回の講義の学習確認小テストを行う。小テスト (評価割合 15%) および定期試験 (評価割合 85%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	薬学部 1 号館 5 階大塚研究室
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	臨床病態学	科目名 (英文)	Clinical Pathophysiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2020a0		

授業概要・目的	管理栄養士は栄養管理や食事療法に基づく治療食を提供する立場にあり、また NST (栄養サポートチーム) の構成スタッフとしても重要な役割を担っている。本講義では、1年次に学修した解剖生理学および臨床医学概論の知識をもとに、管理栄養士の関わりが大きい疾患である、栄養障害と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、運動器疾患、悪性腫瘍に重点をおいて、主要な疾患の成り立ち、診断に至るプロセスと最新の治療法、栄養管理や食事療法との関連について学修する。
到達目標	① 主要疾患の病因、病態 (臓器・組織の変化) について理解する。 ② 主要疾患の病因・病態に基づいた検査・診断及び治療についての知識を総合的に理解する。 ③ 栄養管理、食事療法等が重要となる疾患の病態と治療について理解する。 ④ 対象となる疾患、病態の診療で用いる専門用語や略語に精通する。
授業方法と留意点	オンライン (オンデマンド方式) で講義を行う。ICT ツール (Teams) を用いて提供するパワーポイント (PPT) のビデオを自宅で視聴し、適宜教科書の該当箇所を参照しながら学修する。毎回、復習のために、国家試験問題に準じた内容の「まとめのテスト」を出題し、ICT ツール (Moodle) を用いて所定の期限内の回答を求める。
科目学習の効果 (資格)	1年次に学修した解剖生理学、臨床医学概論を含めると、管理栄養士国家試験の出題基準に該当する項目や疾患について網羅している。1年次、2年次を通して、国試対策に必要な知識を得ることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養障害	栄養学のガイダンス 栄養素の欠乏、過剰 生体の維持と栄養との関連 加齢と老化	事後学習：授業の PPT 復習、教科書の該当項目復習 (180 分) Moodle まとめ的小テスト (60 分)
2	肥満と代謝疾患	肥満、メタボリックシンドローム 脂質異常症 高尿酸血症、痛風 先天性代謝異常症	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
3	糖尿病	糖尿病の診断と治療 病型分類 糖尿病合併症 食事療法、運動療法 経口治療薬、注射薬	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
4	消化器疾患 1	消化管疾患の診断と治療 胃・十二指腸潰瘍、 炎症性腸疾患、 腸閉塞、たんぱく漏出性胃腸症	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
5	消化器疾患 2	肝胆膵疾患の診断と治療 肝炎、肝硬変、脂肪肝 胆石症、胆のう炎 膵炎	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
6	悪性腫瘍	腫瘍と発癌のメカニズム 消化器癌の診断と治療 食道癌、胃癌、大腸癌 肝臓癌、膵癌	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
7	循環器疾患	主な循環器疾患の診断と治療 虚血性心疾患 不整脈 肺栓塞 高血圧	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
8	内分泌疾患	主な内分泌疾患の診断と治療 甲状腺機能亢進症・低下症 原発性アルドステロン症 褐色細胞腫 クッシング病・症候群	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
9	呼吸器疾患	肺癌の診断と治療 肺炎の診断と治療 呼吸リハビリテーション	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
10	神経疾患	認知症の診断と治療 パーキンソン病・症候群 嚥下機能障害	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
11	腎・泌尿器系	腎不全の治療 糖尿病性腎症 CKD (慢性腎臓病) 血液透析、腹膜透析 前立腺癌	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
12	産婦人科疾患	妊娠と分娩 妊娠合併症の管理	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分)

			妊娠高血圧 妊娠糖尿病 女性生殖器疾患：乳癌、子宮癌	事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）	
	13	感染症	皮膚感染症 呼吸器感染症 尿路感染症 胆道系感染症 感染症の治療	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）	
	14	血液・免疫アレルギー	白血病の分類と治療 自己免疫疾患の治療	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）	
	15	運動器疾患	運動器（筋骨格）系疾患 骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節症、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム リハビリテーション	事前学習：Teams（PPT）で該当する基礎的事項の予習（120分） 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習（90分） Moodle まとめ的小テスト（30分）	
関連科目	解剖生理学 解剖生理学実習 臨床医学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学		羽生大記/河手久弥	南江堂
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	疾患の成り立ち：臨床医学 第4版		田中明/加藤昌彦	建帛社
	2	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち		田中清	中山書店
	3				
評価方法（基準）	まとめのテスト（評価割合40%）および期末試験（評価割合60%）で評価し、60%以上で合格とする。				
学生へのメッセージ					
担当者の研究室等	臨床医学研究室（224）				
備考					

科目名	運動生理学	科目名 (英文)	Exercise Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF2021a0		

授業概要・目的	ヒトが日常生活において運動やスポーツを実施した場合の生体諸機能の応答や、運動を継続した場合の適応およびそのメカニズムを理解することを目的とする。具体的には、身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的变化の特徴について理解する。各ライフステージにおける健康管理のための身体活動・運動の意義について理解し、望ましい運動の種類や強度、栄養補給法について学修する。健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針 (アクティブガイド) の基本概念および科学的根拠について理解する。
到達目標	① 健康づくりのための身体活動・運動の意義について理解できる。 ② 身体活動基準および身体活動指針 (アクティブガイド) の基本理念および科学的根拠について説明できる。 ③ 運動による応答および運動トレーニングによる適応について、生理的变化の特徴を説明できる。 ④ 体力を向上させるための運動の種類とトレーニング方法について説明できる。 ⑤ さまざまなトレーニング時における効果的な栄養補給法について概説できる。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回 (9月15日) の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い、摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。 ↓「第5回目より対面で行います」
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野、「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康の増進と運動	現代社会における生活状況の諸問題と、運動が及ぼす影響	事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
2	筋収縮のしくみ	筋の種類と構造、エネルギー産生のしくみ、中枢による運動調節	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
3	運動時の生理機能	心血管系の構造・機能と運動時における変化、トレーニングによる変化、呼吸器系の機能とガス交換、呼吸商、酸素摂取・酸素負債、乳酸	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
4	運動時のエネルギー代謝	エネルギー消費量の測定、筋収縮のエネルギー源、各種運動のエネルギー消費量	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
5	運動と栄養素代謝	運動の種類とエネルギー代謝、運動と糖質	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
6	運動と脂質・たんぱく質	エネルギー源としての脂質・たんぱく質の役割	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
7	運動時の水分代謝と微量栄養素	運動と水分、運動とビタミン・ミネラル・微量栄養素	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
8	運動と食事	運動時の食事内容、運動選手の食生活	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
9	運動と疲労	疲労の原因、疲労の種類と評価、疲労の予防と回復方法	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
10	運動と環境	体温調節のしくみ、運動と熱中症	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
11	健康状態と生活習慣	安静時の医学的検査、運動負荷試験、安全管理	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
12	運動処方の実践	健康成人に対する運動処方と、運動負荷検査・体力測定方法	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
13	身体活動基準	運動・栄養と体力、健康づくりのための身体活動指針 (アクティブガイド) の基本理念と科学的根拠	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
14	身体トレーニング方法	トレーニングの種類と強度 (METs、%最大酸素摂取量)	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。
15	運動療法	運動療法の基本的事項、代謝性疾患・循環器系疾患と運動療法	事前：教科書を読み、分からない語句を調べる。 事後：授業内容の復習。授業終了時に示す課題を仕上げる。

関連科目	解剖生理学、解剖生理学実習、臨床医学概論、臨床病態学
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養科学シリーズ NEXT スポーツ・運動生理学	編著：加藤秀夫、他	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	スポーツ栄養学	編著：田中紀子	化学同人
	2	イラスト 運動・スポーツ生理学	編著：朝山正己	東京教学社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(評価割合 40%) 課題(評価割合 30%)、授業中のグループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物(評価割合 30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 3F 教員室 (323)			
備考				

科目名	薬理学	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2022a0		

授業概要・目的	近年、管理栄養士はチーム医療スタッフとして重要な役割を担っている。たとえば、栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) における栄養管理や生活習慣病などの栄養指導を進める上で、基本的な医薬品や薬物療法の理解は必要な知識のひとつである。「薬理学」では、医薬品の基本的な体内動態および薬効・薬理作用を解説し、主な疾病に対する薬物療法において使用する医薬品を概説し、臨床現場での実践に向けた管理栄養士に必要な薬物療法の基礎的知識を身につける。 SDGs 3, 4
---------	---

到達目標	① 薬物療法における管理栄養士の役割について概説できる。 ② 医薬品の作用する機構や体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について概説できる。 ③ 医薬品と食べ物との相互作用の例を挙げて説明できる。 ④ 自律神経系 (交感神経・副交感神経) に作用する医薬品を例あげて説明できる。 ⑤ 各種疾患に作用する医薬品について知識を身につける。
------	--

授業方法と留意点	本授業では受講者の主体的な学びを通して、専門科目に必要な薬理学の基礎知識を身につける。具体的には、指定された教科書をアクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術に沿って、受講者の主体的な学びをグループワークで行う。すなわち、教科書のテーマ毎に、割り当てられた箇所を各自で読み、用紙にまとめ、グループ全員が発表し、それらの情報を共有する。次に、受講者は学習内容を共通理解するために、不明な点を書き出し、グループ内で対話し、学修した内容についてふりかえりレポートにまとめ、提出する。最後に、Moodle にアクセスし、理解度確認テスト及び小テストを行う。 事前学習：受講者は Moodle にアクセスし、授業日に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後学習：受講者は Moodle にアクセスし、授業計画のテーマに沿った、理解度確認テスト及び小テストを期限内に受験する。 また、授業時間中に Moodle にアクセスして理解度確認テストを受験する際に、ICT ツールとしてスマホ若しくはタブレットを使用するため、十分充電して持参する。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	食品衛生管理者及び食品衛生監視員 (任用資格) の資格取得に係る科目であり、管理栄養士に必要な医薬品の基礎知識を身につけることができる。また、管理栄養士国家試験等に出題される医薬品の知識も修得できる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	薬理学の基礎	薬物の歴史、関係法規、受容体および薬物の吸収・代謝、食品と薬物の相互作用など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 1 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 1 回薬理学の授業講義内容の復習と第 1 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
2	交感神経作用薬・遮断薬	自律神経系の概説とアドレナリン受容体、交感神経作用薬および遮断薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 2 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 2 回薬理学の授業講義内容の復習と第 2 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。	
3	副交感神経作用薬・遮断薬	アセチルコリン受容体、副交感神経作用薬・遮断薬および筋弛緩薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 3 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 3 回薬理学の授業講義内容の復習と第 3 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テストおよび小テストを行う。	
4	体性神経系作用薬・遮断薬	コリンエステラーゼ阻害薬、筋弛緩薬、自律神経節遮断薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 4 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 4 回薬理学の授業講義内容の復習と第 4 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。	
5	循環器系に作用する薬 I	高血圧とその治療薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 5 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 5 回薬理学の授業講義内容の復習と第 5 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。	
6	循環器系に作用する薬 II	狭心症、心筋梗塞、不整脈などの虚血性心疾患の治療薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 6 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 6 回薬理学の授業講義内容の復習と第 6 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。	

	7	オータコイドについて	プロスタグランジン、ヒスタミンおよびセロトニンについて	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 7 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 7 回薬理学の授業講義内容の復習と第 7 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	8	炎症に関する薬Ⅰ	非ステロイド性抗炎症薬および抗ヒスタミン薬	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 8 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 8 回薬理学の授業講義内容の復習と第 8 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	9	炎症に関する薬Ⅱ	ステロイド性抗炎症薬および抗アレルギー薬	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 9 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 9 回薬理学の授業講義内容の復習と第 9 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	10	呼吸器系に作用する薬	呼吸器・消化器系に作用する薬：気管支喘息	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 10 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 10 回薬理学の授業講義内容の復習と第 10 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	11	代謝・内分泌の異常による疾患に作用する薬	糖尿病、高尿酸血症、骨粗しょう症とそれらの治療薬	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 11 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 11 回薬理学の授業講義内容の復習と第 11 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	12	消化器系に作用する薬	胃・十二指腸潰瘍治療薬、クローン病、潰瘍性大腸炎とそれらの治療薬	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 12 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 12 回薬理学の授業講義内容の復習と第 12 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	13	抗生物質	β -ラクタム系、アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール系などの抗生物質	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 13 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 13 回薬理学の授業講義内容の復習と第 13 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
	14	がん作用する薬	代謝拮抗剤、アルキル化剤、抗がん性抗生物質、微小管作用薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 14 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 14 回薬理学の授業講義内容の復習と第 14 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。
15	がん作用する薬	代謝拮抗剤、アルキル化剤、抗がん性抗生物質、微小管作用薬など	事前：受講者は Moodle にアクセスし、第 15 回薬理学に学習する内容の動画を配信しているため、事前に視聴し学習する。 事後：第 15 回薬理学の授業講義内容の復習と第 15 回薬理学ふりかえりレポート、理解度確認テスト及び小テストを行う。	

関連科目 栄養薬理学、臨床栄養学、臨床医療演習、臨床医療実勢演習、セルフメディケーション演習、など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学〔第3版〕	中嶋敏勝 編	医歯薬出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	薬理学テキスト	佐藤 進 編	廣川書店
	2	栄養薬理学	田中芳明・中村 強編	建帛社
	3			
評価方法 (基準)	各授業の理解度確認テスト(10%)、ふりかえりレポートの提出(10%)、小テスト(20%)および期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。なお、取り組み状況(受講態度、各授業でのテスト受験、課題提出など)が不良の場合は、最大10%減点する場合がある。			
学生への メッセージ	今年度の授業はアクティブラーニング方式の授業を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染が急増しているため、オンデマンド方式に変更しました(第1~4回まで)。しかし、緊急事態宣言解除のため、10月13日(水)5限に第5回薬理学から対面方式とします。Moodleでの課題(理解度確認テスト:10%)、ふりかえりレポートの提出;10%)、小テスト:20%)は、同じです。学期末に定期試験が予定されていますので、毎回の授業を大切にしてください。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 農学部8号館2F (教員室225)			
備考				

科目名	解剖生理学実習	科目名 (英文)	Practice in Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹・野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1023a0		

授業概要・目的	本実習は、解剖学および生理学の基礎知識を学修し、人体の構造と機能について理解することとする。具体的には、人体模型標本・骨格標本、実験動物（ラット）の解剖を通して生体の器官・臓器の位置を知り、組織標本を光学顕微鏡で観察することで、組織の構造を特徴を細胞レベルで学修する。生理学実習では、実際に診療で用いられる機器を用いて検査手技を体験し、人体の生理機能、基本的な生活・生命活動、および環境変化に対する適応機構について理解を深める。並行して開講する解剖生理学の講義内容と関連させることで、知識の定着化を図っていく。授業担当者の坂根は、30年以上の臨床経験と、学生の臨床実習や研修医の教育・指導経験を有しており、診療における解剖生理学の意義や重要性を示しながら、実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 生体の構造について器官・組織・細胞レベルで説明でき、それらの生理機能を説明できる。 ② 生理機能検査の意義・原理・方法を説明でき、実施することができる。 ③ 人体に関する知識を栄養学、薬理学、臨床病態学の学修に活用できる。 ④ 基本的な操作・手技を修得する。 ⑤ 実習に主体的に取り組み、得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。
授業方法と留意点	A, B 2つのグループ（各 40名）で隔週に実施。実習内容により 3～5名の小グループに分かれて課題に取り組む。1回目は 1.5 時限（135 分）、2回目以降は 3 時限（270 分）の実習を 1 日で実施し、1.5 時限×15 回分の授業内容を 8 日間で修了する。スケッチ等の課題は実習中に作成し、事後学習で完成して期限内に提出する。最終回に顕微鏡を用いた組織の観察について口頭試問を実施する。並行して同時期に開講する「解剖生理学」において、本実習の内容に配慮した順序で系統講義を行い、本実習内容に関連した「まとめの小テスト」を実施する。原則として全ての実習に出席・参加することが求められる。欠席者には必要に応じて補習を実施する。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患や病態に関する知識は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 顕微鏡の使用法	実習のすすめ方 ICT ツールの使用法 顕微鏡を用いた組織の観察法	事後学習：顕微鏡観察について教科書復習（60分）
2	肉眼解剖 1 人体模型 骨格模型	骨格模型のスケッチ 人体模型の観察、模型の分解と組み立てと試問	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料（PDF など）予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
3	組織学実習 1 顕微鏡	骨組織、筋組織 組織標本の観察・スケッチ 食道・胃・小腸・大腸 組織標本の観察・スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
4	肉眼解剖 2 脈管模型 臓器模型	心臓・血管系の模型スケッチ 肝臓、腎臓の模型スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
5	組織学実習 2 顕微鏡	肝臓・膵臓、心臓・血管系、腎臓 組織標本の観察・スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
6	肉眼解剖 3 臓器模型 生理学実習 1 呼吸機能	肺、横隔膜の模型スケッチ 呼吸機能検査（スパイロメーター）による肺気量測定	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
7	組織学実習 3 顕微鏡	気管・気管支、肺 組織標本の観察・スケッチ 内分泌系（下垂体、甲状腺、副腎）組織標本の観察・スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習（40分）
8	ラットの解剖 1	解剖の手技に関する事前講義 小グループ毎にラット雄雌 1 対を解剖する。 消化管・肝臓・膵臓・脾臓の解剖・観察・スケッチ	事前学習：解剖の手順について予習（60分） 事後学習：スケッチ内容を含めたレポート作成（60分）
9	ラットの解剖 2	心臓・呼吸器系の解剖・観察・スケッチ 腎泌尿器系・生殖器系の解剖・観察・スケッチ	第 8 回に統合
10	生理学実習 1 身体所見 循環器系	身体測定、バイタルサインの測定 ヘマトクリット簡易測定 心電図検査（安静時・運動負荷後）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：課題の完成、授業内容の復習（40分）
11	生理学実習 2 神経系	対光反射 盲点 皮膚感覚 棒反応 腱反射	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：課題の完成、授業内容の復習（40分）
12	生理学実習 3 生化学	尿成分分析 尿比重 唾液アミラーゼ測定	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：課題の完成、授業内容の復習（40分）
13	生理学実習 4 生化学 肉眼解剖 4	血糖測定 味覚測定 口腔内スケッチ（手鏡使用）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習（20分） 事後学習：課題の完成、授業内容の復習（40分）

		口腔観察		
	14	組織学実習 復習	消化器系、筋組織、内分泌系、神経系泌尿器系、末梢血細胞について 組織標本観察、教科書および配布資料等で復習・確認	事前学習：提出したスケッチ課題の見直し、教科書、配布資料（PDF）の復習 口頭試問準備（60分）
	15	口頭試問 総括	小グループごとに、与えられた顕微鏡標本を観察し、試問に答える。	事前学習：第14回と統合 事後学習：口頭試問復習（60分）
関連科目	解剖生理学（前期） 臨床医学概論（後期） 臨床病態学（2年次前期）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」	森田規之、河田光博、松田賢一	講談社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田 守 他	建帛社
	2	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社
	3			
評価方法 （基準）	実習態度（ルーブリック評価）： 評価割合 30% 肉眼・組織標本スケッチ、生理学実習データなど提出課題： 評価割合 30% 第15回 口頭試問成績： 評価割合 40% 合計 60%で合格とする。 合格点に達しない場合には、追加課題（レポート等）が課せられる。			
学生への メッセージ	自分の眼でみて、手を動かし、五感を働かせて、生きた解剖生理学の知識を修得してください。			
担当者の 研究室等 備考	臨床医学研究室（224） 専攻： 内科学、内分泌代謝学			

科目名	生化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人, 小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1024a0		

授業概要・目的
生命現象を化学的に探究するのが生化学であるが、講義だけで生化学を理解するのは困難である。本科目は実験を通じて生化学の知識を深めることを目的とする。具体的には、pH と緩衝液、糖質の性質、たんぱく質・アミノ酸の性質、脂質の性質、ビタミン・無機質 (ミネラル) の性質を学修し、次に動物の臓器を用いて生体中のグリコーゲン、脂質成分、DNA を定量する。さらに、酵素の基本的性質と酵素反応速度論並びに生体における酸化反応と電子伝達を学修する。

- 到達目標**
- ① pH と緩衝液について説明できる。
 - ② 五大栄養素定性反応について説明できる。
 - ③ 肝臓グリコーゲンと筋肉グリコーゲンについて説明できる。
 - ④ 脂肪組織の脂質成分について説明できる。
 - ⑤ 肝臓 DNA について説明できる。
 - ⑥ 各因子の酵素反応への影響が説明できる。
 - ⑦ 細胞における酸化還元反応が説明できる。

授業方法と留意点

- ・下記の授業計画に従い、実験を実施する。
- ・1回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とする。

科目学習の効果 (資格)
生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取る上でも、とても重要な基礎知識です。
管理栄養士国家試験受験資格、栄養

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	pH と緩衝液	pH メーターによる pH の測定をする 緩衝液の調整と働きを学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	糖質の定性反応	糖質の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	たんぱく質・アミノ酸の定性反応	たんぱく質・アミノ酸の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	脂質の定性反応	脂質の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	ビタミンの定性反応	ビタミンの定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	尿中ミネラルの定性反応	尿中ミネラルの定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	肝臓グリコーゲンの分離と定量	ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	筋肉グリコーゲンの分離と定量	ラットの筋肉グリコーゲンを分離して定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	脂肪組織の脂肪酸組成	牛脂身から脂質を抽出し、薄層クロマトグラフィーを用いてその組成を確認する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	肝臓 DNA の分離	ラットの肝臓から DNA を抽出する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	肝臓 DNA の定量	ラットの肝臓の DNA 量を定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	酵素反応①	反応時間と酵素濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	酵素反応①	基質濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	酵素反応①	反応温度と pH が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	生体の酸化反応と電子伝達	ラットの心臓を用いた生きた細胞における酸化還元反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生化学実験	田代 操 編著	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)
実験に取り組む姿勢 (ループリック評価・評価割合 50%) とレポート (評価割合 50%) で評価し、60% 以上で合格とする。

学生へのメッセージ
『生化学実験』では、『生化学』の授業で学んだ内容をより深く理解することを目的とするとともに、生体成分の分析・解析の基本として、分光光度計による定量分析により、酵素活性の分析を行います。これらを通じて実験の原理を理解し、基本操作を身につけてください。またレポート作成を通して、科学データの基本的な報告書の書き方も身につけて下さい。教科書をよく読んで、予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等
薬学部 1 号館 5 階大塚教授室

備考

科目名	微生物学実験	科目名 (英文)	Experiments in Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加藤 直樹, 小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2025a0		

授業概要・目的	人体と微生物や毒性物質との相互作用について、「微生物学実験」を通して学習することを目的とする。具体的には、無菌操作や滅菌、消毒方法、微生物の培養、顕微鏡観察やグラム染色等による分類など基本手技を修得する。また、環境や人体からの微生物の分離同定、抗菌物質の感受性試験、大腸菌を用いた遺伝子組換え実験を通して、感染症の原因となる微生物と人体との関係についての正しい考え方、知識を身につける。																																																																		
到達目標	① 微生物を安全に取り扱うために必要な設備、機器、器具などの種類を理解し、使用方法を修得する。 ② 細菌や酵母、カビのそれぞれに適した培養方法を理解し、分離、培養に必要な基本手技を身につける。 ③ 生物学的、生化学的性状に基づく微生物の同定法を理解し、その実験に必要な技術を修得する。 ④ 抗菌物質の微生物に対する効果を理解する。 ⑤ 微生物を安全に取り扱うための洗浄や消毒、殺菌に関する方法を理解し、正しく行えるようにする。 ⑥ 大腸菌の形質転換実験により、遺伝子組換えの関する基本的な知識を身につける																																																																		
授業方法と留意点	・実験（配布するプリント教材に沿って行う） ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回=計45時間の授業とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かせる。 微生物の分離同定や検査を行うのに必要な無菌操作などの実験技術を身につけることができる。食品の衛生管理において必要な消毒や殺菌についての正しい知識を身につけることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物実験の概要</td> <td>実験の概要</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微生物実験の基本操作</td> <td>無菌操作、滅菌、消毒</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>微生物の培養 I</td> <td>培地の種類、組成、調製</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>微生物の培養 II</td> <td>微生物の培養、分離、保存</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>微生物の観察 I</td> <td>顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>微生物の観察 II</td> <td>染色による観察、コロニーの形状観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>微生物の同定 I</td> <td>生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>微生物の同定 II</td> <td>酵母、カビの培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>環境検体の検査</td> <td>環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人体検体の検査</td> <td>人体部位からの細菌の分離、培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>手指の洗浄と消毒法</td> <td>手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>加熱殺菌法</td> <td>加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>細菌と抗菌物質</td> <td>薬剤感受性試験、生菌数測定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>遺伝子組換え実験</td> <td>大腸菌の形質転換</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>微生物実験の総括</td> <td>実験の総括</td> <td>事後：実験結果のまとめ、レポート作成</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	微生物実験の概要	実験の概要	事前：シラバスの理解	2	微生物実験の基本操作	無菌操作、滅菌、消毒	事前：実験内容の確認	3	微生物の培養 I	培地の種類、組成、調製	事前：実験内容の確認	4	微生物の培養 II	微生物の培養、分離、保存	事前：実験内容の確認	5	微生物の観察 I	顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	6	微生物の観察 II	染色による観察、コロニーの形状観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	7	微生物の同定 I	生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	8	微生物の同定 II	酵母、カビの培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	9	環境検体の検査	環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	10	人体検体の検査	人体部位からの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	11	手指の洗浄と消毒法	手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	12	加熱殺菌法	加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	13	細菌と抗菌物質	薬剤感受性試験、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	14	遺伝子組換え実験	大腸菌の形質転換	事前：実験内容の確認	15	微生物実験の総括	実験の総括	事後：実験結果のまとめ、レポート作成
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	微生物実験の概要	実験の概要	事前：シラバスの理解																																																																
2	微生物実験の基本操作	無菌操作、滅菌、消毒	事前：実験内容の確認																																																																
3	微生物の培養 I	培地の種類、組成、調製	事前：実験内容の確認																																																																
4	微生物の培養 II	微生物の培養、分離、保存	事前：実験内容の確認																																																																
5	微生物の観察 I	顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
6	微生物の観察 II	染色による観察、コロニーの形状観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
7	微生物の同定 I	生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
8	微生物の同定 II	酵母、カビの培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
9	環境検体の検査	環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
10	人体検体の検査	人体部位からの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
11	手指の洗浄と消毒法	手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
12	加熱殺菌法	加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
13	細菌と抗菌物質	薬剤感受性試験、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
14	遺伝子組換え実験	大腸菌の形質転換	事前：実験内容の確認																																																																
15	微生物実験の総括	実験の総括	事後：実験結果のまとめ、レポート作成																																																																
関連科目	微生物学、分子生物学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物実験マニュアル（第2版）</td> <td>安藤昭一編著</td> <td>技報堂出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	微生物実験マニュアル（第2版）	安藤昭一編著	技報堂出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	微生物実験マニュアル（第2版）	安藤昭一編著	技報堂出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	実験に取り組む姿勢（ルーブリック評価・40%）とレポート（60%）で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	目には見えない「微生物」は私たちの生活と深い関わりがあります。微生物に関する正しい知識と取り扱い方法を習得しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8号館 3F 教員室(308)																																																																		
備考																																																																			

科目名	食品学総論	科目名 (英文)	General Food Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1026a0		

授業概要・目的	<p>栄養管理を行う際に必要であり、健康に欠かせない食品の成分や性質を学び食品の役割・機能を理解することを目的とする。具体的には、食品の一次機能を担うたんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質など生命維持に必要な食品成分の化学構造・性質、物性等や栄養特性を理解する。また、色素成分、呈味成分、におい成分などおいしさを感じさせる二次機能、及び人の健康の維持・増進に関わる三次機能を有する特定保健用食品等の成分と作用について学修する。</p> <p>本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。</p>
到達目標	<p>① 食品の一次、二次及び三次機能について説明することができる。</p> <p>② アミノ酸・ペプチド、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。</p> <p>③ 食品中の色、味、におい成分の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。</p> <p>④ 特定保健用食品の成分と作用について説明することができる。</p> <p>⑤ 食品の主観的評価 (官能評価) の方法について説明することができる。</p>
授業方法と留意点	オンライン授業
科目学習の効果 (資格)	<p>管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	人間と食品	食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
2	食品の一次機能たんぱく質①	食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の種類と構造	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
3	たんぱく質②	たんぱく質の種類、性質、たんぱく質の変性	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
4	炭水化物①	炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
5	炭水化物②	単糖、オリゴ糖	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
6	炭水化物③	多糖、植物繊維	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
7	脂質①	脂質の定義、分類、脂肪酸	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
8	脂質②	油脂の性質、酸化、リン脂質	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
9	ビタミン①	ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
10	ビタミン②	水溶性ビタミンの機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
11	無機質	無機質の種類、性質、機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
12	食品の二次機能①	水分、水の構造と性質、色素成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
13	食品の二次機能②	呈味成分、香気・におい成分の種類、作用、テクチャー	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
14	食品の三次機能	三次機能を持つ主な食品成分とその作用	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)
15	食事設計	官能評価 (官能検査) の種類と検査手法	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1時間)

関連科目	食品学各論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅰ 食品成分とその機能を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国試対策研究会	中央法規出版

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の小テスト（評価割合 20%）および定期試験（評価割合 80%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食品成分の本質的な理解を目指します。みなさんの今後の勉学の基礎となる内容です。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 研究室			
備考				

科目名	食品学各論	科目名 (英文)	Food Materials Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1027a0		

授業概要・目的
 一般に利用されている食品を植物性食品、動物性食品、油糧食品等に分類し、個々の食品についてその性状や含有成分（主要成分や微量成分）の理化学的性質を理解することを目的とする。具体的には、甘味料、調味料、香辛料などの食品添加物、調理加工品、バイオ食品の特性についても学修するとともに、食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用や微生物を利用した発酵食品を含む）についても学修する。「食品学総論」に引き続いて、健康で豊かな食生活を作り上げるための食品及び食品素材の特性に関する知識を高める。また、食品加工のための食品素材の物理的、化学的性質を理解し、「食品加工学実習」へと知識、理解をつなげる。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

到達目標
 ① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。
 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。
 ③ 食品中の代表的含有成分、その性質について、説明できる。
 ④ 食品中成分の劣化について、物理的因子、化学的因子を説明できる。

授業方法と留意点
 オンライン (Moodle を使用した動画ファイル提供) を実施します。第5回目より対面授業とします。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食生活と健康	食習慣と生活習慣病	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
2	食品成分表	食品表示法の概要、保健機能食品	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
3	穀類	米、小麦、とうもろこし	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
4	いも類	いも類の特徴、じゃがいも、さつまいも等	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
5	野菜類	ビタミン類、クロロフィル、緑黄色野菜	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
6	きのこ、藻類	キノコ類の特徴、フレーバー、アルギン酸、ペクチン	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
7	植物性食品の栄養と加工 (1)	植物性食品の特徴と分類、野菜類の分類	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
8	植物性食品の栄養と加工 (2)	果実類の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	食肉の種類、組織、構造、成分、食肉の加工	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、魚介類、水産食品の鮮度	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
11	油脂、調味料	植物性油脂、動物性油脂、加工油脂の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
12	微生物利用食品	アルコール飲料、みそ、しょうゆ、納豆	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
13	食品の保存と加工	食品保存における物理化学的因子	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
14	食品の保存と成分変化	たんぱく質の変性、でんぷんの老化、脂質の酸化	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)
15	食品加工	食品加工の特質	授業前に教科書で各講義内容を学習し (1 時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく (1 時間)

関連科目
 食品学総論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅱ 食品の分類と特性・用途を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国家試験対策研究会	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題（評価割合 10%）および定期試験（評価割合 90%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1 年生前期で履修した食品学総論の知識が必須です。しっかり復習した後、講義にのぞんでください。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 教室			
備考	Teams に登録後、Moodle に入ってください。(Teams で連絡することもありますので) Teams の連絡用チャンネルを確認したのちリンク先の Moodle に来てください。			

科目名	食品衛生学	科目名 (英文)	Food hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1028a0		

授業概要・目的	食品に起因する健康被害を未然に防ぎ、食品の安全を守るために、食品の生産・加工・保存・流通・調理段階で発生する食品衛生上の健康危害を理解し、対策・予防を行うための基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、食品衛生行政組織や食品関係法規を理解し、食中毒の原因となる病原微生物や残留農薬、動物性医薬品、食品添加物、食品汚染物質や食品・器具容器包装などに関する衛生を学修する。また、食品衛生管理、食品の表示制度について理解し、食品の安全性を守るためのエビデンスとなる基本知識を学修する。 授業では、国の食品衛生行政の実務経験を活かして、食品衛生現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学修する。
到達目標	① 食品衛生に関する行政組織、食品衛生関連法規、リスク分析について説明することができる。 ② 食品の変質の分類と変質の防止方法について説明することができる。 ③ 食中毒病因物質の分類、病因物質別の予防方法を説明できる。 ④ 食品中の汚染物質について例を挙げて説明することができる。 ⑤ 食品添加物の種類、使い方、安全性評価方法について説明できる。 ⑥ 食品の衛生管理について説明することができる。 ⑦ 食品表示の種類、役割、機能について説明することができる。
授業方法と留意点	本講義は、対面授業方式により食品衛生の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説や演習問題を行い、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説を行う。講義後には Moodle を用いて、その日の内容の小テストや感想などをレポートとしてまとめて決められた期限までに提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。小テスト、授業終了時の振り返りシートについても評定とする。また、その他課題がある場合はその提出も授業出席の根拠として含める。
科目学習の効果 (資格)	本講義は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、食品衛生監視員の任用資格などを含む資格取得に活かせることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食品衛生と法規 ①	食品衛生の概要、わが国の法規、食品安全基本法と食品衛生法、食の安全を支える体系について学ぶ。	事前：教科書の第1回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第1回の小テストを行う。
	2	食品衛生と法規 ②	リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションのリスク分析 (リスクアナリシス) について学ぶ。	事前：教科書の第2回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第2回の小テストを行う。
	3	食品衛生と法規 ③	食品衛生に関連する法規 食品衛生法 (リスク管理) 日本の食品衛生行政組織 (食品衛生を担う者) 食品衛生に関わる国際的組織及び委員会について学ぶ。	事前：教科書の第3回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第3回の小テストを行う。
	4	食品の変質 ①	食品の変質とは、微生物による変質、化学的変質、酸敗の判定法、鮮度、腐敗度の判定法について学ぶ。	事前：教科書の第4回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第4回の小テストを行う。
	5	食品の変質 ②	食品成分の変化によって生じる有害物質、食品の変質の防止法について学ぶ。	事前：教科書の第5回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第5回の小テストを行う。
	6	食中毒 ① 食品と食中毒	食中毒とは、食中毒予防原則、食中毒の発生状況、微生物とは、微生物の食品への関与、微生物の制御について学ぶ。	事前：教科書の第6回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第6回の小テストを行う。
	7	食中毒 ②	食中毒の分類、細菌性食中毒 (感染型) について学ぶ。	事前：教科書の第7回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第7回の小テストを行う。
	8	食中毒 ③	細菌性食中毒 (毒素型)、ウイルス性食中毒、人獣 (畜) 共通感染症について学ぶ。	事前：教科書の第8回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第8回の小テストを行う。
	9	食中毒 ④	寄生虫による食中毒、動物性自然毒について学ぶ。	事前：教科書の第9回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第9回の小テストを行う。
	10	食中毒⑤ 食品中の汚染物質	植物性自然毒、食品中汚染物質 (カビ毒、化学物質、有害元素、放射性物質)、異物、アレルギーについて学ぶ。	事前：教科書の第10回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第10回の小テストを行う。
	11	残留農薬 動物用医薬品	残留農薬、動物用医薬品について学ぶ。	事前：教科書の第10回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第10回の小テストを行う。
	12	器具・容器包装 遺伝子組み換え食品 食品添加物 ①	器具・容器包装、遺伝子組み換え食品とゲノム編集食品、食品添加物の指定について学ぶ。	事前：教科書の第11回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第11回の小テストを行う。
	13	食品添加物 ② 食品衛生管理	食品添加物の分類・表示および HACCP、ISO、集団給食施設等における衛生管理などについて学ぶ。	事前：教科書の第12回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第12回の小テストを行う。
	14	食品表示制度	食品表示法、食品表示基準、期限表示、栄養成分表示、アレルギー表示、遺伝子組み換え表示、健康や栄養に関する表示、虚偽・誇大広告などについて学ぶ。	事前：教科書の第13回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第13回の小テストを行う。
	15	リスク分析に基づく食品の安全性、リスクバランス	リスク分析に基づく食品の安全性、リスクバランスについて学ぶ。	事前：第1回～14回の内容の復習を行っておく。 事後：第15回の小テストを行う。
関連科目	食品衛生学実験、食品学各論、食品学実験Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	食品衛生学改訂第2版	田崎達明	羊土社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品安全の事典	日本食品衛生学会編	朝倉書店
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト(30%)、振り返りシート(10%)、定期試験(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業では、食品衛生の現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学びます。講義中での復習問題、事前・事後学習、小テストなどを通して理解していきましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320			
備考				

科目名	食品加工学	科目名 (英文)	Food processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2029a0		

授業概要・目的	食品加工学は、食品に物理的、化学的処理を施して、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるための理論と方法を学ぶものである。本講義では、食品加工の意義を学ぶと同時に、食品の素材や加工特性、食品劣化の要因、食品の加工法、貯蔵法を学修する。本講義と「食品加工学実習」を学ぶことにより、栄養士・管理栄養士として勤務する上で食のエキスパートとして必要な食品の利用や判別能力を身につけることを目的とする。
到達目標	① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。 ③ 食品の素材や加工特性、食品劣化の要因について、説明できる。
授業方法と留意点	講義を、教科書とプリントを用いて、食品加工の基礎原理について講義する。各講義中課題を与える。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食品加工の目的	食品加工の意義	食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと
2	食品保存の原理	水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化	食品劣化の原因について予習しておくこと
3	各種保存法	浸透圧、殺菌、pH、冷凍	水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと
4	食品加工法の原理	物理的操作、化学的操作	乾燥、抽出について予習しておくこと
5	食品加工の生物的操作	微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌	酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと
6	穀類の加工	米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵	アミロースについて予習しておくこと
7	豆類の加工	大豆、豆腐、納豆	たんぱく質の凝集について予習しておくこと
8	植物性食品の栄養と加工	いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料	ペクチンについて予習しておくこと
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	畜肉、ハム、燻製	食肉加工品について予習しておくこと
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度	K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと
11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料について予習しておくこと
12	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ	発酵について予習しておくこと
13	機能性食品	食物繊維、魚油、乳酸菌	化学構造について予習しておくこと
14	包装	食品包装材料、プラスチック、酸素の透過	包装フィルムについて予習しておくこと
15	製品表示、賞味期限と消費期限	品質の規格化、賞味期限、原材料、法律	加工食品安全性について予習しておくこと

関連科目	食品加工学実習、食品学総論、食品学各論、調理学
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい食品加工学	小川正、的場輝佳	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食品加工学	管理栄養士国家試験教科研究会	中山書店
2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店
3	食品加工・食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社

評価方法 (基準)	毎回の講義後に与えられた Forms の提出 (30%)、レポート課題提出 (20%) および定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。Forms の提出は、次回の講義開始までとする。
学生へのメッセージ	質問は、Teams のチャットでしてください。
担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 3F 教員室 (322)

科目名	調理学	科目名 (英文)	Cookery Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1030a0		

授業概要・目的	調理とは、献立作成から始まり、食品選択・調理操作・供卓までの一連のプロセスを含んでいることを理解し、健全な食生活を送るための調理学の役割と、調理をより効果的に活用するために必要な理論と実際を学修することを目的とする。具体的には、エネルギー源、調理機器、調理操作について大量調理への応用展開も視野に入れて理解し、さらに各種食品の調理性を原理から理解して修得する。また、様々な対象や場面に応じて栄養・嗜好性に加えて経済性や効率性さらには食環境など食を取り巻く生活全体を捉えた食事設計の基礎を学修する。
到達目標	① 調理の意義を説明できる。 ② 各種の調理・調味操作の原理・要点について説明できる。 ③ 各食品の調理性について説明できる。 ④ 食事摂取基準を活用し、様々な対象や場面に応じた1食単位および1日単位の食事設計（献立作成・調理操作手順等）の方法を説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントを用いた講義をweb配信する。 必要に応じて資料はweb配信する。 各講義後に、講義の確認小テストをweb上で行う。 Web上のふりかえりシートにより質問を受け付ける。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-1. 食べ物と健康の関連の理解」および「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「調理学」のガイダンス	調理学で学ぶ内容の概説、調理の意義について	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
2	おいしさの科学	食物の嗜好性(おいしさ)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
3	調理器具と非加熱調理操作	非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬・切断・成型・磨砕・粉砕・混合・攪拌・圧搾・濾過・冷却・冷凍・解凍など)における調理器具と調理操作について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
4	調理器具と加熱調理操作	加熱調理操作(エネルギー源・伝熱方法・湿式加熱・乾式加熱・誘電加熱・誘導加熱)における調理器具と調理操作および新調理システム(真空調理・クックチル・クックフリーズなど)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
5	食品成分表	食品成分表の理解と活用について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
6	植物性食品の調理性(米・小麦・芋類・豆類)	米・小麦・芋類・豆類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
7	植物性食品の調理性(野菜類・果物類・きのこ類・海藻類)	野菜類・果物類・きのこ類・海藻類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
8	動物性食品の調理性(肉類・魚介類)	肉類・魚介類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
9	動物性食品の調理性(卵類・乳類)	卵類・乳類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
10	成分抽出素材・その他	デンプン・ゲル化材料などの調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
11	調味料と調味操作	調味パーセントの理解と各種調味料の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
12	食事設計(食事摂取基準と食品構成)	食事摂取基準の理解と活用および食品構成の作成について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間)	

				る(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)																
	13	1食単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1食単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)																
	14	1日単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1日単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)																
	15	エコ・クッキング	エコ・クッキング(環境に配慮した調理)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(1.5時間) また、講義全体を通して目標に対する到達度を評価する(30分)																
関連科目	食品学総論、食品学各論、食品加工学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>四訂 健康・調理の科学</td> <td>和田淑子・大越ひろ 編著</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎</td> <td>坂本裕子、森 美奈子 編</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>八訂 日本食品標準成分表 2021</td> <td>香川 明夫 監修</td> <td>女子栄養大出版部</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	四訂 健康・調理の科学	和田淑子・大越ひろ 編著	建帛社	2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人	3	八訂 日本食品標準成分表 2021	香川 明夫 監修	女子栄養大出版部
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	四訂 健康・調理の科学	和田淑子・大越ひろ 編著	建帛社																	
2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人																	
3	八訂 日本食品標準成分表 2021	香川 明夫 監修	女子栄養大出版部																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>調理と理論</td> <td>山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著</td> <td>同文書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス</td> <td>松崎 政三・寺本 あい・藤井 恵子 著</td> <td>学際企画</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調理のためのベーシックデータ 第5版</td> <td>松本 伸子 監修</td> <td>女子栄養大出版部</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	調理と理論	山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著	同文書院	2	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三・寺本 あい・藤井 恵子 著	学際企画	3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	調理と理論	山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著	同文書院																	
2	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三・寺本 あい・藤井 恵子 著	学際企画																	
3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部																	
評価方法(基準)	毎回実施する小テスト(評価割合40%)および筆記試験(評価割合60%)により、総合的に評価を行う。60%以上で合格とする。																			
学生へのメッセージ	講義で学んだことを毎日の食生活の中で常に反映させるよう意識して下さい。																			
担当者の研究室等	8号館3階319研究室																			
備考																				

科目名	食品学実験 I	科目名 (英文)	Experiments in Food Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉, 小林 直木, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1031a0		

授業概要・目的
 実際の食品を用いて、食品成分表で用いられている手法に基づいて食品の基本的成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物の分析を行い、重量分析、容量分析、比色分析など食品成分の分析に必要な分析原理や手法を学修し、食品の持つ性質、機能および役割を理解する。実験を通じて、共同実験者とのコミュニケーションをとり自ら実験操作を行う習慣を身につける。また、実験器具や薬品の取り扱い方など食品学実験に必要な基礎知識を修得する。さらに、実験値と食品成分表に記載されている文献値を比較して実験値の意味を理解し、管理栄養士として必携となる食品成分表に記載されている数値の意味の理解を深める。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。

- 到達目標**
- ① 実験器具や試薬の取り扱いを理解し、安全に実験を行うことができる。
 - ② 食品中の水分やたんぱく質を測定することができ、重量分析や改良ケルダール法の原理を説明することができる。
 - ③ 食品中の脂質や炭水化物を測定することができ、ソックスレー抽出法や比色分析の原理を説明することができる。
 - ④ 食品中のヨウ素価を測定することができ、脂質の変敗について説明することができる。
 - ⑤ 実験値から食品成分表に記載されている数値の意味を説明することができる。
 - ⑥ コミュニケーションを取り自ら実験操作を進めることが

授業方法と留意点

- ・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。
- ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
- ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。

科目学習の効果 (資格)

- ・管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
- ・食品企業・公的機関の品質管理・分析業務に直結し、商品開発にも活かせる。

管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	食品学実習の目的、内容、実験上の基礎知識と諸注意	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
2	実験の基礎	実験器具、試薬の取り扱い、デシケータ準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
3	水分、灰分測定①	食品中の水分の定量 (常圧加熱乾燥法) 灰分 (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
4	水分、灰分測定②	灰分の定量 (乾式灰化法) (550℃法) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
5	脂質の分析①	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 抽出) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
6	脂質の分析②	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 秤量、恒量、粗脂肪計算)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
7	脂質の分析③	ヨウ素価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
8	たんぱく質の分析① (改良ケルダール法)	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
9	たんぱく質の分析②	ケルダール分解装置の設置 試料分解準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
10	たんぱく質の分析③	ケルダール分解装置試料分解	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
11	たんぱく質の分析④	水酸化ナトリウム溶液の力価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
12	たんぱく質の分析⑤	分解溶液の蒸留および滴定、窒素量計算	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
13	炭水化物の分析①	アンスロン・硫酸法 (比色分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
14	炭水化物の分析②	アンスロン・硫酸法 (検量線の作成、全糖量の算出)、差し引き法	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1 時間)。実験後、実習レポートを作成する (1 時間)。
15	まとめ	食品成分表との比較、ディスカッション、総評	事前に配布した資料を確認しておく (1 時間)。終了後、レポートを作成する (1 時間)。

関連科目 食品学総論・各論など食品関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プライマリーガイド	倉沢新一他	化学同人
2	食品学実験	中谷延二、菊崎泰枝 編著	光生館	
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）分析マニュアル・解説	安井明美他編	建帛社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習後 1 週間後に、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載すること。レポート (80%)、実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食品企業の食品管理・開発現場では日常業務ともいえる重要な分析手法を学びます。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 教室			
備考	1 年前期に同時進行する食品学総論と関連付けながら進めていきます。 食品成分表 (女子栄養大学出版) を持ってきてください。			

科目名	食品学実験Ⅱ	科目名 (英文)	Experiments in Food Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1032a0		

授業概要・目的	「食品学実験Ⅰ」における学修を踏まえて、実際の食品に微量含まれる無機質とビタミンの定量分析を行う。また、比色法によるビタミンC及び鉄の分析、原子吸光法によるマグネシウム、高速液体クロマトグラフィー法によるビタミンCの測定法をそれぞれ修得し、それらの測定原理を理解することを目的とする。具体的には、実験を通じて、食品の栄養特性に関する知識を高める。また、食品機能性の評価指標として抗酸化活性の測定を行い、機能性評価と消化酵素阻害活性における活性測定の意義を理解する。 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。
到達目標	① 食品学の基礎知識を修得し、食品各成分の分析手法を実習により理解する。 ② 管理栄養士がもつべき分析にかかる基礎知識を修得し、食品成分含量や機能性評価のための基礎知識を養う。 ③ ビタミンの分析手法である比色法、および液体クロマトグラフィー法の原理を説明できる。
授業方法と留意点	・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 企業ニーズが高い食品の高度分析法を修得することで、あらゆる食品企業勤務に対応できる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実験ガイダンス	実験ノートの記述法の確認、薬品の安全な使用方法	ビベット、天秤の使用法について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
2	分析機器	分光光度計の使い方、各種分析機器の原理	ランバートベアの法則について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
3	鉄の分析	キレート法を用いた鉄の分析	キレートについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
4	鉄の分析	大豆中の鉄の分析	検量線について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
5	マンガンの定量	原子吸光法	原子吸光について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
6	ポリフェノール含量の測定	お茶のポリフェノール含量の測定	ポリフェノールについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
7	ビタミンC 定量のための試薬調整	ビタミンCの定量の原理と薬品	ビタミンCについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
8	ビタミンCの定量	比色法を用いたビタミンCの定量	酸化と還元について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
9	ビタミンCの劣化	ビタミンCの酵素的劣化	ビタミンの劣化について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
10	ビタミンCのHPLCによる定量	液体クロマトグラフィー	カラムについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
11	抗酸化活性	DPPH ラジカル消去能	抗酸化活性について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
12	酵素的褐変	果実の色の変化	酵素的褐変について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
13	酵素反応	α -グリコシダーゼ酵素反応	酵素反応速度について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
14	カテキン	カテキンの酵素反応阻害	阻害について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。
15	実験データの整理	エクセルを用いたデータ整理	表計算について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく (1時間)。実験レポートを作成する (1時間)。

関連科目	食品学総論・各論など食品関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社
	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、	東京教学社

			武曾歩、山本久美	
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習後に実習結果を、レポートにまとめる。また、実習中に与えた課題についても答える。レポートの提出は、1週間後の実習前までとする。レポート(80%)、実習中の内容(ルーブリック評価・20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	健康志向など消費者ニーズの高まりは、食品分析の高度化を推し進めることになりました。 原子吸光分析や液体クロマトグラフィーなど先端機器を使用する高度な分析手法も取り扱います。			
担当者の 研究室等	8号館3階 321研究室			
備考	☆初回ガイダンスのみ Teams を使った動画ファイル提供によるオンラインとします。Teams の連絡用チャネルのファイルに動画ファイルを置いて いますのでご視聴ください。			

科目名	食品衛生学実験	科目名 (英文)	Experiments in Food Hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉親, 小林 直木, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2033a0		

授業概要・目的	「食品衛生学」の講義で学修した食品衛生の知識を基礎として、食品危害の原因を解明し、飲食に起因する健康被害を未然に防ぐための検査技術を実験を通じて修得することを目的とする。具体的には、手指や調理器具の細菌汚染状況や消毒効果を把握するための検査手法を修得する。また、食品の安全性を評価するために実際の食品を用いて食品添加物や残留農薬の検査を行い、分析機器の原理を理解し、得られた結果から講じるべき衛生管理手法について自ら考察できる力を養う。
到達目標	① 食品中の手指等の汚染状況を把握する細菌学的検査ができ、衛生管理手法について説明することができる。 ② 食品中の着色料（酸性タール色素等）の抽出・同定ができ、薄層クロマトグラフィーの原理を説明できる。 ③ 食品中の発色剤（亜硝酸ナトリウム等）の定量ができ、比色測定を説明できる。 ④ 食品中の保存料（ソルビン酸、安息香酸ナトリウム等）の定量ができ測定原理を説明できる。 ⑤ 残留農薬の抽出・同定ができ、抽出原理、GC/MSの測定原理が説明できる。
授業方法と留意点	実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実験レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
科目学習の効果（資格）	本実験は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、実験を通してこの分野の理解を深め資格取得に活かせることができる。管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 細菌汚染検査①	食品衛生学実験の目的、内容、理化学・微生物実験上の基礎知識と諸注意 衛生管理のための試験 空中落下細菌の測定、スタンプ法	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
2	細菌汚染検査②	手指汚染検査 食品器具・容器汚染検査 手指、器具の消毒効果（空中落下細菌の測定、ATP ふき取り試験、スタンプ法）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
3	細菌汚染検査③ 食品添加物の分析①	細菌汚染検査培養結果 食品中の発色剤（亜硝酸ナトリウム）の原理（抽出）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
4	食品添加物の分析②	食品中の発色剤（亜硝酸ナトリウム）の抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
5	食品添加物の分析③	食品中の発色剤（亜硝酸ナトリウム）の測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
6	食品添加物の分析④	食品中の保存料（ソルビン酸、安息香酸）の抽出（1回）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
7	食品添加物の分析⑤	食品中の保存料（ソルビン酸、安息香酸）の抽出・測定（2回）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
8	食品添加物の分析⑥	食品中の保存料（ソルビン酸、安息香酸）の測定、解析	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
9	食品添加物の分析⑦	食品中の保存料（ソルビン酸、安息香酸）の結果考察 食品中の着色料（タール系色素）の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
10	食品添加物の分析⑧	食品中の着色料（タール系色素）の抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
11	残留農薬分析①	食品中の着色料（タール系色素）の TLC 法	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
12	残留農薬分析②	野菜、果実中の残留農薬（試料調製、抽出）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
13	残留農薬分析③	野菜、果実中の残留農薬（抽出、測定）	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
14	残留農薬分析④	野菜、果実中の残留農薬（濃度計算） GC/MS 原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
15	残留農薬分析⑤ まとめ	野菜、果実中の残留農薬結果考察 食品衛生学実験総括	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。

関連科目 食品衛生学、食品学各論、食品学実験Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品衛生検査指針 2015	厚生労働省監修	日本食品衛生協会
2	衛生試験法・注解 2020	日本薬学会	金原出版	
3				

評価方法（基準） 毎回の実験後1週間後に、実験内容をまとめたレポートを提出する。実験内容の目的、方法、結果、考察、参考文献等を記載すること。このレポート（60%）および実験中の取り組み（40%）より評価する。

学生へのメッセージ 食品衛生学実験で得られた結果を規格基準などと対比させてその結果が食品衛生上どのような意味があるのか考えていきましょう。

担当者の研究室等 枚方キャンパス農学部 教員室320

備考

科目名	食品加工学実習	科目名 (英文)	Practice in Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 英文, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2034a0		

授業概要・目的	<p>「食品加工学実習」は、実際に穀類、砂糖、野菜、果実等の加工食品を作る基礎技術を修得する。食パン、うどん、アイスクリーム、ヨーグルト、ジャム、カスタードクリーム、豆腐ほかの製造を実習しながら、食品素材の加工特性（食品成分の物理的、化学的変化）、食品製造原理や技術について学ぶ。さらに、製造後の製品評価を多角的視点で行う事により、日常生活での加工食品の選択がより安全・安心なものとなり、健やかな食生活基礎を作ることができる。加えて、本実習を通して食への興味を広げ、食の原点を見つめなおし、真に豊かな食生活に貢献することを目的とする。特に、管理栄養士として加工食品の適切な取り扱いと食品開発に関わる基礎的技術の修得も目指す。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 食品の加工実習により、食品加工の原理を理解する。 ② 管理栄養士がもつべき食品加工にかかる基礎知識を実践的に修得し、加工食品の特質を理解する。 ③ 乳化、攪拌、加熱操作、酸化等加工に関わる技術単語を理解する。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習のはじめに Power Point およびプリントで実習内容を説明する。 ・実習は、各班 4-5 人として実習を実施する。 ・実習のはじめに、材料、操作を確認し、実習ノートに記載した後、実習を実施する。 ・1回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とする。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習ガイダンス</td> <td>食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法</td> <td>資料、参考書による予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>いも類加工食品の品質</td> <td>いも類加工食品の品質評価</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>乳化食品の加工 (1)</td> <td>アイスクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>豆類の加工</td> <td>豆腐の製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>穀類食品の加工</td> <td>パンの着色操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>乳化食品の加工 (2)</td> <td>マヨネーズの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>穀類の加工 (1)</td> <td>食パンの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乳化食品の加工 (3)</td> <td>カスタードクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>穀類加工食品の品質評価</td> <td>スポンジケーキの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発酵食品の加工</td> <td>ヨーグルトの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>野菜類の加工</td> <td>ジャムの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>飲料の加工</td> <td>茶、紅茶の抽出操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜類の加工</td> <td>酵素による野菜の軟化操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>穀類の加工 (2)</td> <td>うどんの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>加工法のまとめ</td> <td>総括 発表</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習	2	いも類加工食品の品質	いも類加工食品の品質評価	資料、参考書による予習、復習	3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習	5	穀類食品の加工	パンの着色操作	資料、参考書による予習、復習	6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習	7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習	8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習	10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習	11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習	12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習	13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習	14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習	15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習																																																																
2	いも類加工食品の品質	いも類加工食品の品質評価	資料、参考書による予習、復習																																																																
3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
5	穀類食品の加工	パンの着色操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習																																																																
関連科目	食品加工学、食品学実験Ⅰ～Ⅱ、調理学実習Ⅰ～Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実験プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	実験プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	実験プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品学実験書</td> <td>藤田修三、山田和彦/編著</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品加工、食品機能実験</td> <td>大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美</td> <td>東京教学社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社																																																																
2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の実習 1 週間後に、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、材料、操作、結果、参考文献を記載すること。このレポート (80%) および実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>食品加工の原理を理解し、食品製造プロセスについて調べてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8 号館 3F 教員室 (3 2 2)																																																																		
備考																																																																			

科目名	調理学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美, 織田 奈央子, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1035a0		

授業概要・目的	食品の調理性に関する実践的知識と基本的調理操作に関する基礎的能力を育成すること、および食の様々な場面において必要な基本的マナーと、安全・衛生面に関する正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、代表的な調理器具の扱い方と調理操作（ゆでる、煮る、蒸す、炒める、揚げる等）の基本を修得し、食品の特性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について学修する。また、調味%を理解することにより、調味の標準化に関する基礎的事項を修得する。さらに、栄養価計算をとおり、食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量および食品成分表の理解と活用能力を育成する。
到達目標	① 代表的な調理器具を使用し代表的な調理操作ができる。 ② 食品の調理性および味付けの基本をふまえ、調味割合として調味の標準化ができる。 ③ 食品の調理性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について説明できる。 ④ 食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量を理解し、食品成分表を使用して栄養価計算ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは、教員による説明⇒実習⇒試食⇒後片付けとする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習 I」のガイダンス	「調理学実習 I」で学ぶ内容の概説および調理を伴う実習における衛生管理についての説明	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する(1時間)
2	レポートの書き方	レポートの書き方の説明(調味料の概量・調味パーセント・作業スケジュール・栄養価計算など)	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(1時間)
3	計量器具の扱い方と食品重量	計量スプーンの扱い方と食品重量に対する重量感覚に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する(1時間)
4	包丁の扱い方	包丁の種類や扱い方の基本に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する(1時間)
5	日本料理(ご飯の炊き方、煮干しだしのとり方、青菜のゆで方)	実習内容: ご飯、味噌汁、だし巻き卵、青菜のおひたし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
6	西洋料理(ひき肉料理の基本、サラダの基本)	実習内容: Hamburg Steak, Salade de Legumes	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
7	中華料理(湯菜・炒菜・拌菜の基礎)	実習内容: 黄花湯 青椒炒牛肉絲 香芹拌菜	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
8	日本料理(すし飯の作り方、乾物の扱い方、一番出しのとり方)	実習内容: ちらしずし、菊花豆腐の吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
9	西洋料理(ホワイトソースの作り方)	実習内容: Macaroni Gratin, Fruits Salad, lemonade	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
10	中華料理(点心の基礎)	実習内容: 鍋貼餃子、酸辣菜、川粉条	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
11	日本料理(希釈卵液の熱凝固、吉野鶏について)	実習内容: ご飯、煮魚、茶碗蒸し、吉野鶏とみつばの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
12	和菓子(寒天の扱い方、白玉粉の扱い方、煎茶の入れ方)	実習内容: 白玉あんみつ、そばボーロ、煎茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
13	洋菓子(卵の熱凝固、紅茶の入れ方)	実習内容: Pudding, Cookie, Tea	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
14	中華菓子(卵の起泡性、中国茶の入れ方)	実習内容: 鶏蛋?, 石花凍、中国茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
15	実技試験(切り方)	基本的な切り方の確認	事前に基本的な切り方の再確認して練習する(1時間)

				間) 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する(30分)
関連科目	調理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
	2	八訂 日本食品標準成分表 2021	香川 明夫 監修	女子栄養大出版部
	3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人
	2	調理と理論	山崎 清子、渋谷 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	食べ物と健康、給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、村元由佳里 編	講談社
評価方法 (基準)	レポートなどの提出物(評価割合40%)、授業に取り組む姿勢(評価割合30%)、小テストおよび実技試験(評価割合30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	事前に実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 日常的な調理経験が多いほど実習で学んだことが効果的に身に付くため、普段の生活においてできるだけ調理する機会をもつようにしてください。			
担当者の 研究室等	8号館3階319研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	調理学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1036a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ」で修得した基礎的知識と技術をもとに、和・洋・中・その他の各様式の食事を題材とした実践的調理実習を通して、食品の調理性、様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について応用力・発展力を身につけることを目的とする。具体的には、立案した食事計画の実際を経験することにより、食事計画の「計画 (Plan)」「実践 (Do)」「評価 (Check)」「改善 (Action)」を行う。さらに、日本の食文化の継承を視野に入れた正月料理などの行事食やもてなしの食事、世界各国の食文化をふまえた各種料理を調理することにより、歴史的背景や伝統を考慮したうえで調理する力を養う。
到達目標	① 日常食の献立作成の基本、1食あたりの食品の使用量を考慮した1食単位および1日単位の食事設計と調理ができる。 ② 食品成分表を食事摂取のアセスメントと食事計画に活用できる。 ③ 日本の伝統的食品の特性に応じた正月料理や日本料理等食文化をふまえた調理ができる。 ④ 世界各国の食文化・歴史的背景・伝統を考慮した調理ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは「調理学実習Ⅰ」と同様であるが、日本および世界各国の食文化をふまえた内容を主とする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。さらに、グループワークとして様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について検討する。立案した食事計画を調理・試食することにより実践的な技術を学修する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅱ」のガイダンス	「調理学実習Ⅱ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する(1時間)
2	献立作成 (日常食)	グループワークによる日常食の献立作成	事前に「調理学」で学んだ献立作成について復習する(30分) 事後は、グループ毎に献立を完成させる(1時間)
3	日本料理 (もち米の調理、揚げ調理について)	実習内容: 赤飯、天ぷら、赤だし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
4	西洋料理 (鱈の三枚おろし)	実習内容: 鱈のムニエル、フルーツサラダ、カボチャスープ	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
5	中華料理 (小麦粉の生物的膨化)	実習内容: 包子 (2種)、石花凍	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
6	献立実習 (日常食)	第2回で立案した日常食の献立実習	事前に実習準備をしておく(30分) 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる(1時間)
7	献立報告会 (日常食)	第2回および第6回をふまえたグループ毎による日常食の献立報告会	事前に報告準備をしておく(1時間) 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる(30分)
8	献立作成 (行事食)	グループワークによる行事食の献立作成	事前に行事食について調べておく(30分) 事後は、グループ毎に献立を完成させる(1時間)
9	諸外国料理	実習内容: パエリア、生春巻き、杏仁豆腐	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
10	行事食 (正月料理)	実習内容: 雑煮、三祝肴	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
11	行事食 (クリスマス料理)	実習内容: Roast Chicken、Canape、Grape Punch	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
12	行事食 (節分料理)	実習内容: すし、梅そうめんの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
13	献立実習 (行事食)	第8回で立案した行事食の献立実習	事前に実習準備をしておく(30分) 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる(1時間)
14	献立報告会 (行事食)	第8回および第13回をふまえたグループ毎による行事食の献立報告会	事前に報告準備をしておく(1時間) 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる(30分)
15	実技試験	試験内容を事前に提示し実施	事前に提示した実技試験の内容を確認し練習しておく(1時間) 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する(30分)

関連科目 調理学、調理学実習Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
	2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子	化学同人
	3	八訂 日本食品標準成分表 2021	香川 明夫 監修	女子栄養大出版部
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 仲子 監修	女子栄養大出版部
	2	調理と理論	山崎 清子、渋谷 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	食べ物と健康, 給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、村元由佳里 編	講談社
評価方法 (基準)	レポート (評価割合 50%)、授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価・評価割合 30%)、実技試験 (評価割合 20%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	事前に実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。また、日常的な食経験の積み重ねが重要であるため、学んだ内容を意識して生活して下さい。			
担当者の研究室等	8号館3階319研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	調理学実習Ⅲ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2037a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で修得した知識と技術をもとに、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係について、より深く理解することを目的とする。具体的には、穀類、野菜類、卵類、肉類などの食材を用いて調理条件を変化させ、でんぷんの糊化と物性との関係、食品に含まれる色素成分の調理による変色と安定化、食品の調理性に対する調味料の影響、調理による成分の変化等について調理実習・調理科学実験を行う事により理解を深める。また、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。
到達目標	① 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化を理解した調理ができる。 ② 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して評価できる。 ③ 官能検査の手法を用いて、食品や調理・加工品の評価ができる。
授業方法と留意点	・下記の授業計画に従い、実習を行う。 ・前半は、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。 ・後半は、各種食材の調理条件を変化させ、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して、調理学実習・実験を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学的理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅲ」のガイダンス	「調理学実習Ⅲ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(30分) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(1時間)
2	官能評価法の実際①(5味識別、順位法)	基本的な味の味質や強さの判定 順位法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
3	官能評価法の実際②(2点比較法、3点比較法)	2点比較法、3点比較法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
4	官能評価法の実際③(評点法)	評点法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
5	だし汁の調理	だし汁の種類と味の相乗効果	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
6	米の調理性と嗜好性	炊飯に対する米の種類、水温、浸漬時間の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
7	小麦粉の調理性と嗜好性	小麦粉の種類と性質、添加物の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
8	豆類の調理性と嗜好性	豆の種類と加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
9	野菜の調理性と嗜好性	野菜の吸水と放水、色素の変化、酵素による褐変	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
10	卵の調理性と嗜好性	卵の鮮度鑑別、卵白の起泡性と泡の安定性、卵液の熱凝固性	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
11	肉類の調理性と嗜好性	肉の軟化方法	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
12	砂糖の調理性と嗜好性	砂糖の加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
13	ゲル化剤の調理性と嗜好性	各種ゲル化剤について扱い方の違いや特徴	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
14	油脂の調理性と嗜好性	油脂の種類、揚げ油の温度変化、油の吸着と食品の脱水	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる(30分) 事後、実習内容に関するレポートをまとめる(1時間)
15	まとめ	「調理学実習Ⅲ」のふりかえり	事前に今までのレポートを見直す(1時間)

				事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する (30分)
関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nブックス調理学実験 (第2版)	長尾慶子、香西みどり 編	建帛社
	2	日本食品成分表 2021 八訂 栄養計算ソフト・電子版付		医歯薬出版
	3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理と理論	山崎 清子、渋川 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート70%、授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価) 30%で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	8号館3階319研究室			
備考				

科目名	基礎栄養学	科目名 (英文)	Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広, 岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1038a0		

授業概要・目的	<p>栄養学の基礎を学ぶ。始めに栄養とは何か、栄養と身体活動とのバランスの重要性を理解し、メタボリックシンドロームと栄養との関係、個々人の身体状況に応じた栄養（テーラーメイドの栄養管理）の大切さを学修する。次に、各栄養素の特徴と代謝の概要を含め、摂食行動、消化器系の特徴、各栄養素の消化・吸収と体内動態について学修し、たんぱく質、糖質、脂質、ビタミン、無機質（ミネラル）、水・電解質、食物繊維といった各栄養素の生体での役割について学びを深めていく。さらに、エネルギー代謝並びに遺伝と栄養についても学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係についての基礎的事項が説明できる。 ② 摂食行動についての基礎的事項が説明できる。 ③ 五大栄養素の栄養についての基礎的事項が説明できる。 ④ 食物繊維と難消化性オリゴ糖についての基礎的事項が説明できる。 ⑤ 水・電解質の役割についての基礎的事項が説明できる。 ⑥ エネルギー代謝についての基礎的事項が説明できる。 ⑦ 遺伝子発現と栄養についての説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。</p>																																																																		
科目学習の 効果（資格）	<p>管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養の概念</td> <td>食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂食行動</td> <td>摂食行動について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消化と吸収①</td> <td>各消化器の構造と特徴について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消化と吸収②</td> <td>各栄養素の消化と吸収について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>たんぱく質の栄養</td> <td>たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>糖質の栄養</td> <td>糖質の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>食物繊維と難消化性オリゴ糖について</td> <td>食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脂質の栄養</td> <td>各脂質成分の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビタミンの栄養①</td> <td>脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①</td> <td>水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ミネラルの栄養②</td> <td>微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水・電解質の役割</td> <td>水・電解質の役割と脱水について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エネルギー代謝①</td> <td>エネルギー代謝の概念について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エネルギー代謝②</td> <td>エネルギー消費量の測定方法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>遺伝子発現と栄養</td> <td>遺伝子発現と栄養について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	栄養の概念	食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	2	摂食行動	摂食行動について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	3	消化と吸収①	各消化器の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	4	消化と吸収②	各栄養素の消化と吸収について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	5	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	6	糖質の栄養	糖質の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	7	食物繊維と難消化性オリゴ糖について	食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	8	脂質の栄養	各脂質成分の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	9	ビタミンの栄養①	脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	10	ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①	水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	11	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	12	水・電解質の役割	水・電解質の役割と脱水について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	13	エネルギー代謝①	エネルギー代謝の概念について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	14	エネルギー代謝②	エネルギー消費量の測定方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	15	遺伝子発現と栄養	遺伝子発現と栄養について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	栄養の概念	食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
2	摂食行動	摂食行動について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
3	消化と吸収①	各消化器の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
4	消化と吸収②	各栄養素の消化と吸収について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
5	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
6	糖質の栄養	糖質の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
7	食物繊維と難消化性オリゴ糖について	食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
8	脂質の栄養	各脂質成分の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
9	ビタミンの栄養①	脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
10	ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①	水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
11	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
12	水・電解質の役割	水・電解質の役割と脱水について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
13	エネルギー代謝①	エネルギー代謝の概念について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
14	エネルギー代謝②	エネルギー消費量の測定方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
15	遺伝子発現と栄養	遺伝子発現と栄養について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
関連科目	<p>全ての専門コア科目</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学</td> <td>小林謙一、山田徳広、岸本良美 他</td> <td>理工図書株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学	小林謙一、山田徳広、岸本良美 他	理工図書株式会社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学	小林謙一、山田徳広、岸本良美 他	理工図書株式会社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。</p>																																																																		
学生への メッセージ	<p>一生懸命勉強してください。</p>																																																																		
担当者の 研究室等	<p>応用栄養学研究室 (325)</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	基礎栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広, 岸本 良美, 担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑨, DP3⑩		
科目ナンバリング	OAF1039a0		

授業概要・目的
 栄養現象を、実験を通じて学修することを目的とする。試験管内の In vitro の実験系と、動物、ヒトを使った In vivo 実験を用いる。具体的には、In vitro の実験系において唾液とラット小腸膜酵素を用いたときでんぷんの消化性、でんぷんとセルロースを消化酵素または硫酸で消化したときの糖の結合様式による分解性の違い、生卵とゆで卵を用いたたんぱく質の加熱変性が消化性に及ぼす影響、などを学修する。ラットを用いた実験系においては、食事が肝臓の脂質並びにグリコーゲン濃度に及ぼす影響などを学修する。ヒト試験においては、たんぱく質摂取量が尿中尿素排泄量に及ぼす影響と食後血糖の推移及びエネルギー代謝の測定方法などを学修する。

- 到達目標**
- ① でんぷんの消化機構について説明できる。
 - ② 糖質の結合様式の違いによる消化性の違いについて説明できる。
 - ③ たんぱく質の変性が、たんぱく質の消化性に及ぼす影響について説明できる。
 - ④ グルコースの吸収機構について説明できる。
 - ⑤ 正常肝と脂肪肝の脂質組成の違いについて説明できる。
 - ⑥ 高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取の尿中尿素量の違いについて説明できる。
 - ⑦ 食品成分が血糖へ及ぼす影響について説明できる。
 - ⑧ アミノ酸スコアの計算方法を修得する。
 - ⑨ タイムスタディ法によるエネルギー消費

授業方法と留意点
 ・下記の授業計画に従い、実験と実習を実施する。
 ・1回あたり1.5コマ (135分授業) [3時間] ×15回=計45時間の授業とする。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実験授業を行うにあたって	実験授業を行うにあたっての基礎的事項を学修する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
2	糖質の消化①	唾液と腸液によるでんぷんの消化を学修する。①	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
3	糖質の消化②	唾液と腸液によるでんぷんの消化を学修する。②	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
4	たんぱく質の消化性①	生卵とゆで卵の消化性の違いを学修する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
5	たんぱく質の消化性②	ペプシンとトリプシンの違いを学修する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
6	正常肝と脂肪肝からの脂質の抽出	正常食または高エネルギー食を摂食した鶏の肝臓から脂質成分を抽出する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
7	正常肝と脂肪肝の脂質成分	正常食または高エネルギー食を摂食した鶏の肝臓の脂質成分を分析する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
8	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中尿素量の変化	高たんぱく質食または低たんぱく質食摂取時の尿中尿素濃度を測定する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
9	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中クレアチニン量の変化とクレアチニン補正	前週に採取した尿のクレアチニン濃度を測定し、第8回の授業で測定した尿中尿素濃度をクレアチニン補正する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
10	血糖曲線	糖質を摂食した後の血糖曲線の推移を学修する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
11	タンパク質の栄養価の求め方	アミノ酸スコアを計算する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
12	食品成分の血糖曲線への影響	食品成分が血糖曲線に与える影響を学修する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
13	タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算	タイムスタディ法によるエネルギー消費量を計算する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
14	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定①	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝を測定する。①	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
15	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定②	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝を測定する。②	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。

関連科目
 全ての専門コア科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布プリント		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)
 実験に取り組む姿勢 (評価割合 50%) とレポート (評価割合 50%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生への
 一生懸命勉強してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	応用栄養学研究室 (325)
備考	

科目名	応用栄養学 I	科目名 (英文)	Applied nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2040a0		

授業概要・目的	個人及び集団に応じた適切な栄養管理を行うためには、対象者や対象集団の身体状況や栄養状態を的確に把握し、問題点を明確にする必要がある。栄養管理の基本である栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養に関連する問題の抽出、栄養介入、栄養モニタリングと栄養管理の評価及びそのフィードバックについて理解することを目的とする。食事摂取基準の各指標の意義、エネルギーや各栄養素の策定の基礎、活用の基礎、栄養評価と栄養介入などを修得する。
到達目標	① 栄養状態の評価や判定の基本的な考え方を理解する。 ② 食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に講義形式で授業を進める。ポイントまとめたスライド映写や、適宜プリントも配布する。各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。 状況に応じて、Teams、Forms を使用した遠隔授業（双方型）に切り替える。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養ケア・マネジメント①	応用栄養学で学ぶこと、栄養ケア・マネジメントの概要	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
2	栄養ケア・マネジメント②、小テスト	栄養スクリーニング、栄養アセスメントの方法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
3	栄養ケア・マネジメント③、小テスト	栄養ケアプログラムの計画、目標設定、実施	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
4	栄養ケア・マネジメント④、小テスト	栄養マネジメントの評価、判定	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
5	食事摂取基準の基礎的理解①、小テスト	食事摂取基準の意義・策定方針	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
6	食事摂取基準の基礎的理解②、小テスト	食事摂取基準活用に関する基本的事項	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
7	食事摂取基準の基礎的理解③、小テスト	エネルギーの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
8	食事摂取基準の基礎的理解④、小テスト	たんぱく質の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
9	食事摂取基準の基礎的理解⑤、小テスト	脂質の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
10	食事摂取基準の基礎的理解⑥、小テスト	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスの食事摂取基準	毎関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
11	食事摂取基準の基礎的理解⑦、小テスト	脂溶性ビタミンの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
12	食事摂取基準の基礎的理解⑧、小テスト	水溶性ビタミンの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
13	食事摂取基準の基礎的理解⑨、小テスト	多量ミネラル、微量ミネラルの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
14	食事摂取基準の基礎的理解⑩、小テスト	対象特性、生活習慣病と栄養	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
15	「応用栄養学 I」のまとめ、小テスト	復習とまとめ	事前に指示した関連科目の復習、教科書の該当ページを学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)

関連科目	臨床栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、基礎栄養学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂スタディ応用栄養学	東條 仁美 編集	建帛社
	2	日本人の食事摂取基準 2020 年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。各講義前に前回の講義の学習確認小テストを行う。小テスト(評価割合 30%)および定期試験(評価割合 60%)、課題(評価割合 10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業後に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。			
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 2 研究室 (220)			
備考				

科目名	応用栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2041a0		

授業概要・目的	各器官や機能の発達には決定的に重要な時期が存在し、この時期に正常な発育が妨げられると重大な機能障害を招く恐れがある。現ステージの栄養・健康状態は前ステージの影響を強く受け、次ステージに受け継がれていく。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定の基本的考え方を修得することを目的とする。健康増進、疾病の発症予防と重症化予防、介護予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関する栄養管理の基本的な考え方や方法について理解する。
到達目標	① 各ライフステージで生じる健康・栄養課題の背景と特徴を理解し、栄養管理の基本的考え方を修得する。 ② 健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について修得する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	妊娠期の栄養①	生理的特徴	毎回の授業時に指示する
3	妊娠期の栄養②	栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
4	授乳期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
5	新生児期・乳児期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
6	幼児期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
7	学童期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
8	思春期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
9	成人期の栄養①	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア (生活習慣病予防)	毎回の授業時に指示する
10	成人期の栄養②	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア (更年期)	毎回の授業時に指示する
11	高齢期の栄養①	生理的特徴	毎回の授業時に指示する
12	高齢期の栄養②	栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
13	高齢期の栄養③	高齢期にリスクの高まる疾患に対する栄養アセスメントと栄養ケア	毎回の授業時に指示する
14	高齢期の栄養④	介護予防・合併症予防(QOL向上)に対する栄養アセスメントと栄養ケア	毎回の授業時に指示する
15	「応用栄養学Ⅱ」のまとめ	復習とまとめ	毎回の授業時に指示する

関連科目	全ての専門コア科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改定スタディ応用栄養学	東条仁美 編著	建帛社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	一生懸命勉強してください。
担当者の研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)
備考	

科目名	栄養教育論 I	科目名 (英文)	Nutrition education I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2044a0		

授業概要・目的	栄養教育の意義と栄養教育に必要な基礎知識と理論を学修することを目的とする。栄養士・管理栄養士が、我が国における栄養教育の進展、並びに国民の健康管理・増進に果たしてきた役割を学ぶとともに、現代人が抱えている食行動・食生活・食環境に関わる様々な課題を食行動変容の関りの面から理解する。これらの食の現状を踏まえ、栄養教育の意義、行動科学を中心とする理論、栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を習得する。また、栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感や職業倫理についても理解する。
到達目標	① 栄養教育の意義・特性について説明できる。 ② 栄養士の職務、職域、職業使命、職業倫理について説明できる。 ③ 人の食行動・食生活・食環境について理解している。 ④ 栄養状態の改善と食行動変容の関りについて説明できる。 ⑤ 行動変容の基礎となる行動科学の学習理論を説明できる。 ⑥ 栄養教育に活用する基礎知識が習得できている。 ⑦ 栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を理解している。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義中心に進めるが、グループワークやグループ討議、プレゼンテーション等のアクティブラーニング形式を取り入れる。指定されたテキストのページや配布資料を予習する。毎回、授業内容の理解を深める小テストや復習課題を課す。質疑応答の時間を授業内に設ける。授業時には、指定されたテキストを持参する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	栄養教育の概念 (1)	授業オリエンテーション、栄養教育の定義と目的について、国民の健康課題の現状を理解する。(講義・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)
2	栄養教育の概念 (2)	栄養教育の対象と機会について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
3	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理について理解する。(講義・復習課題)	事前: 事前配布資料を読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
4	栄養教育に必要な関係法規	栄養教育に必要な関係法規について法的知識を習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
5	行動科学理論と栄養教育 (1) ①~③	行動科学の定義と行動変容について理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題・小テスト)	事前: テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
6	行動科学理論と栄養教育 (2) ④~⑥	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
7	行動科学理論と栄養教育 (3) ⑦~⑩	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
8	行動科学理論と栄養教育 (4) ⑪~⑭	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
9	行動科学理論と栄養教育 (5)	行動科学理論に基づく健康支援のプロセスを理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読む (1時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
10	栄養教育に活用する基礎知識 (1)	日本人の食事摂取基準の栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・小テスト)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
11	栄養教育に活用する基礎知識 (2)	食生活指針と食事バランスガイドの栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・復習課題)	事前: テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる (2時間) 事後: 授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる (2時間)	
12	栄養教育に活用する基礎知識	健康的な食生活管理に活用する知識を	事前: テキストの指定ページを読み、	

		識 (3)	習得する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・復習課題)	分からない語句について調べる (2時間) 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)
	13	栄養教育マネジメント (1)	栄養教育マネジメントの枠組み・アセス メントについて理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・復習課題)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる (2時間) 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)
	14	栄養教育マネジメント (2)	健康・食物摂取状況のアセスメントの調 査方法について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・復習課題)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる (2時間) 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)
	15	栄養教育マネジメント (3)	個人要因や環境要因のアセスメントや 優先課題の特定について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・小テスト)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる (2時間) 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)

関連科目 栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり他	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	栄養教育論 理論と実践	武見ゆかり	医歯薬出版㈱
2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
3			

評価方法 (基準) 小テスト・復習課題 (40%)、定期テスト (60%) で評価し、60%の評価以上で合格とする。

学生へのメッセージ 栄養士・管理栄養士は、人々の健康づくりを支援するために、徹底的に対象者の方の立場になって考え、貢献できる人となることが求められます。この授業を通じて学んだことを日々の生活や今後の人生にも役立てて欲しいと思っています。楽しく前向きな気持ちで、授業に取り組みましょ

担当者の研究室等 8号館3階326

備考

科目名	臨床栄養学 I	科目名 (英文)	Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	百木 和. 畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2048a0		

授業概要・目的	臨床栄養学の意義と目的、及び臨床現場における管理栄養士の業務内容、栄養管理の方法などを通して、臨床栄養学の概念の修得を目的とする。具体的には、チーム医療、NST (栄養サポートチーム) における管理栄養士業務と多職種連携の概要、対象者の栄養状態を評価・判定する栄養評価法、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価の PDCA に沿った栄養管理法である栄養管理プロセスの流れを理解する。また、外来や入院患者に対する栄養教育の方法や、栄養ケア記録 (PES)、問題志向型システム (POS) を用いた栄養カルテの記載方法について修得する。さらに、医療制度及び介護保険制度について学修する。
到達目標	① 臨床における栄養ケアプロセスの意義と目的を理解し、説明できる。 ② 栄養ケアプロセスの手法である、栄養状態の把握 (アセスメント)、問題点の発見、問題解決するためのケアプランの作成 (栄養補給計画、栄養教育計画、他職種との連携など)、実践と経過観察 (ケア記録の作成) など、それぞれの項目について知識と技術を理解し、説明できる。 ③ 医療・介護制度について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。状況に応じて、遠隔授業 (双方向型) に切り替える。Teams、Forms を使用予定
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の概念、意義と目的について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
2	医療と臨床栄養	医療での管理栄養士の役割と職業倫理、クリニカルパスと栄養ケア、チーム医療について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
3	小テスト、医療制度の概念	医療制度の基本と診療報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
4	介護保険制度の概念	介護制度の基本と介護報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
5	小テスト、栄養スクリーニングとアセスメント (臨床診査)	スクリーニングとアセスメントの種類、臨床診査項目について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
6	栄養アセスメント (身体計測)	アセスメントを行うための身体計測、食事調査の種類と評価法について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
7	小テスト、栄養アセスメント (臨床検査)	臨床検査値の概略について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
8	栄養ケアプラン	栄養ケアプランを立てるための必要量の決め方、補給法について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
9	栄養補給法 (経口栄養)	病院給食について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
10	栄養補給法 (経腸栄養)	経腸栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
11	栄養補給法 (経静脈栄養)	経静脈栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
12	小テスト、栄養療法による合併症および副作用について	経腸栄養療法、静脈栄養療法による合併症とその予防について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
13	低栄養傷病者・要介護者への栄養教育	低栄養傷病者および低栄養要介護者への栄養教育、在宅ケアについて (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
14	過栄養傷病者・要介護者への栄養教育	過栄養傷病者および要介護者への栄養教育について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)
15	小テスト、栄養ケアの記録	栄養ケア記録の意義、問題志向型システム (POS) について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2 時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2 時間)

関連科目	基礎栄養学、臨床医学概論、臨床病態学、応用栄養学等 栄養系科目全般
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレント 臨床栄養学 第3版	明渡 陽子ほか	建帛社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解する必要があります。暗記だけでなく、理解するように心がけてください。		
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 1 研究室 (百木、219)、第 2 研究室 (畦西、220)		
備考	対面授業になった場合は、板書を行う場合があるので、ノートを準備してください。小テスト等で電卓が必要です。		

科目名	臨床栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2049a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ」で修得した栄養管理プロセスの基礎知識を基に、各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解、及び栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法と栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理法の修得を目的とする。 代謝系疾患を中心に栄養学的に病態を理解し、疾患に基づいた栄養管理プロセスの修得を目的とする。具体的には、栄養障害、肥満・代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患、筋・骨格系疾患、小児・妊産婦・高齢期疾患の病態に対応する適切な栄養管理のための知識とその方法を修得する。
到達目標	① 疾患毎の病態および食事療法の理論について説明することができる。 ② 疾患の予防治療のための栄養管理および栄養教育方法を考えることができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿って講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、講義前に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、栄養障害	たんぱく質エネルギー栄養障害 (PEM) について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
2	肥満	肥満症、メタボリックシンドロームについて	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
3	糖尿病	糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
4	脂質異常症	脂質異常症の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
5	小テスト、高尿酸血症	高尿酸血症、痛風の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
6	内分泌疾患	甲状腺疾患等の内分泌疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
7	循環器疾患	動脈硬化症、心疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
8	小テスト、腎疾患 (糸球体腎炎)	腎疾患の概略と糸球体腎炎、ネフローゼの食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
9	腎疾患 (糖尿病性腎症)	糖尿病性腎症、CKD の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
10	腎疾患 (透析)、尿路疾患	透析、尿路疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
11	小テスト、呼吸器疾患	COPD、喘息等の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
12	血液系疾患	貧血、出血性疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
13	筋・骨格系疾患	骨疾患、サルコペニア、ロコモの概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
14	乳幼児疾患	乳幼児特有の疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)
15	妊産婦疾患	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する (2時間)

関連科目	臨床医学概論、臨床病態学、基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学1、3、4
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレント 臨床栄養学 第3版	明渡 陽子ほか	建帛社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解することが必要です。暗記だけでなく、理解するように心がけてください。		
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第1研究室		
備考	各回終了後に、課題を Forms により実施する (対面型講義期間は実施予定なし)		

科目名	臨床栄養学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	百木 和. 織田 奈央子. 担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2053a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学 I・II」の講義で修得した治療食や疾患別栄養管理の考え方を基に、臨床現場における治療食の実際について修得することを目的とする。臨床栄養管理における栄養補給法や食品構成に基づく献立作成、発注、調理を行い、成分栄養別治療食の食事療法の実際を学修する。具体的には、展開食の基本を理解した上で、常食から軟食・エネルギーコントロール食・たんぱく質コントロール食への展開および食物アレルギー食の実際について学修する。さらに、治療食の食事療法に用いられる特別治療用食品の実際についても学修する。
到達目標	① 成分栄養別治療食の食事療法を理解する。 ② 食品構成に基づく治療食の献立作成を行うことができる。
授業方法と留意点	・個別あるいはグループワークでの取り組みを主体とする実習および講義（ビデオ、スライド含む）により行う。 ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回=計45時間の授業とする。授業内容により、3コマ[6時間]で実施する回がある。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実習の進め方、確認テスト 治療食の概要	実習のオリエンテーション、治療食の概要	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
2	一般治療食の概要	一般治療食の概要と展開食献立作成の際の注意点	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
3	展開食の献立作成	展開食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
4	栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
5	軟食調理	全粥、軟食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
6	小テスト、エネルギーコントロール食（EC食）の概要	成分栄養別治療食の概要と糖尿病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
7	EC食の献立作成	エネルギーコントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
8	EC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
9	EC食の調理	エネルギーコントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
10	小テスト、たんぱく質コントロール食（PC食）の概要	たんぱく質コントロール食の概要と腎臓病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
11	PC食の献立作成	たんぱく質コントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
12	PC食の栄養価調整	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
13	PC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
14	PC食の調理	たんぱく質コントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）
15	食物アレルギー対応食の実際と調理	食物アレルギーの概要と対応食の実際	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく（2時間） 授業内で指示する課題を行う（2時間）

関連科目	調理学、給食経営管理論、臨床栄養学1、2、3、4
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品成分表 2020		医歯薬出版
2	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版		日本糖尿病学会	
3	腎臓病食品交換表 第9版	黒川 清監修、中尾 俊之他 編	医歯薬出版	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。 遅刻3回で1日欠席とする。5日以上欠席で単位不認定とする。 課題60%、小テスト20%、授業への取り組み(ルーブリック評価)20%により評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	治療食の献立作成、調理は、疾患ごとに使える食材に制限があり、通常の調理とは異なる点が多々あります。 臨床栄養学の講義で学んだ内容を復習して臨んでください。
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第1研究室(219)
備考	食品成分表は、調理学実習で購入しているもので可、電卓が必須です。 調理のためのベーシックデータ第5版(調理学実習で購入済)を持参してください。

科目名	公衆栄養学 I	科目名 (英文)	Public Health Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2056a0		

授業概要・目的	我が国や諸外国の健康・栄養問題と主要な健康・栄養施策、栄養に関する各種統計を理解するとともに、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。
到達目標	① 健康の考え方について説明できる。 ② プライマリ・ヘルスケアについて説明できる。 ③ 疾病の一次、二次、三次予防について説明できる。 ④ 我が国や諸外国における健康・栄養に関する現状や問題について理解する。 ⑤ 地域や集団の健康を維持・増進するのに必要な栄養政策について理解する。
授業方法と留意点	Microsoft Teams を用いた遠隔授業（オンデマンド方式）で行います。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の意義や目的について（オンライン）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
2	公衆栄養活動	集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図る公衆栄養活動の沿革について（オンライン）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
3	健康状態の変化	我が国の人口問題・長寿社会や食糧問題について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
4	食事・食生活の変化	エネルギー・栄養素摂取量の変化、食生活の変化について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
5	食環境の変化	我が国の食料自給率・食品生産・流通について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
6	国民健康・栄養調査の目的・方法	国民健康・栄養調査の目的・方法について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
7	国民健康・栄養調査結果の概要	最新の国民健康・栄養調査結果の概要について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
8	公衆栄養活動	公衆栄養活動の沿革・管理栄養士・栄養士制度について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
9	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康栄養政策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題および健康栄養政策について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
10	法規（地域保健法）	地域保健法について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
11	法規（健康増進法）	健康増進法について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
12	健康日本 21	健康日本 21・健康増進計画について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
13	公衆栄養施策（健康・栄養関連の指針・ガイドライン）	食生活指針・運動指針について（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
14	公衆栄養施策（健康・栄養関連の教育ツール）	食事バランスガイドについて（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う
15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認（対面）	事前に教科書を読み、用語調べを行う・小テストの再確認を行う

関連科目 公衆衛生学・臨床栄養学・応用栄養学・栄養教育学・給食経営管理論と関連しています

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向（最新版）		（財）厚生統計協会
2	国民健康・栄養調査報告（最新版）	健康栄養情報研究会 編	第一出版
3	日本人の食事摂取基準（最新版）	厚生労働省	第一出版

評価方法（基準）	各回提出の確認テスト 30%、定期試験 70%
学生へのメッセージ	公衆栄養学 I では、主に公衆栄養学に関する知識を扱います。
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室 (221)
備考	

科目名	給食経営管理論 I	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2059a0		

授業概要・目的	給食施設における管理栄養士の業務を理解するため、給食運営や経営の方法を修得することを目的とする。具体的には、関連法規、栄養食事管理、情報管理、食材料管理、原価管理、品質管理など、管理栄養士が給食におけるマネジメントを行うために必要な知識と技能を修得するため、特定給食施設において特定多人数に対する食事提供の適切な運営方法について理解する。また、栄養アセスメントの結果に基づき、大量調理の特性を理解した食事計画、安全な食事の提供のための衛生管理、それに対する評価・改善などを学修する。
到達目標	給食運営に関する食事計画、栄養面、安全面のマネジメントについて理解する。
授業方法と留意点	・毎回テーマに沿って授業を進め、最後の10分でその日の授業内容に関する小テストを実施し理解度をチェックする。 ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業終了時に実施する小テストで未回答だった項目は各自のノートにまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	給食業務を行うために必要な栄養管理、献立作成などの食事の計画や作業を効率的かつ安全に運営するためのシステムの把握及び給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割や栄養・衛生・品質・生産 (調理) の管理について学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	給食について	給食の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	給食経営管理	給食経営管理の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	栄養管理	栄養・食事管理 I (栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	食事管理	栄養・食事管理 II (栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	品質管理	給食の品質 (給食の品質の標準化)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	生産 (原価)	給食の生産 I (原価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	生産 (調理) と提供	給食の生産 II (食材、生産 (調理) と提供)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	安全・衛生 (食品)	給食の安全・衛生 I (安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	安全・衛生 (災害)	給食の安全・衛生 II (事故・災害時対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	施設・設備管理	施設・設備管理 (生産 (調理) 施設・設備設計、食事環境の設計と設備)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	人事・事務	給食の人事・事務 (人事・労務管理、事務管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	給食施設 I	施設別給食経営管理 I (病院、高齢者・介護保険施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	給食施設 II	施設別給食経営管理 II (児童福祉施設、障害者福祉施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	給食施設 III	施設別給食経営管理 III (学校給食、事業所給食、外食・中食・配食)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	まとめ	今期授業の確認・質疑応答	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目	「給食経営管理論 II」 「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」
------	--------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。 ・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。 ・関係法規の内容について理解しているか。
-----------	---

学生へのメッセージ	給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 223
------------	---------------------

科目名	給食経営管理論Ⅱ	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2060a0		

授業概要・目的 「給食経営管理論Ⅰ」で学修した内容を十分に理解した上で、給食運営管理における基本的マーケティングや組織を管理する際のマネジメントの考え方や方法を学ぶことを目的とする。具体的には、給食部門管理者として効率的かつ安全に運営するための組織管理・人事管理・それにかかる経費やマーケティングに関する基本的知識を学修し、そのシステム構築やマネジメントの知識と技能を修得し、経営管理能力を養う。また、危機管理の対応や、医療施設における給食運営についての実践例について学修し、実践的な解決能力を養う。

- 到達目標
- ① 経営管理の意義と機能について説明できる。
 - ② 給食とマーケティングについて説明できる。
 - ③ 給食の衛生管理について説明できる。
 - ④ 給食の人事管理について説明できる。
 - ⑤ 給食の原価構成について説明できる。

授業方法と留意点

- ・各班に分かれてテーマに沿って課題解決に取り組む。
- ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業時の板書や資料に基づいて各自のノートにまとめておくこと。

科目学習の効果 (資格)

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理 (組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等) について関連の資源 (食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費) との関係の総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法について述べる。また各種給食施設の特徴についても学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。

管理栄養士国家試験受

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	給食経営管理	給食経営管理の概要	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	管理栄養士	管理栄養士の役割	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	給食経営と組織	経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	給食経営管理の評価	経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	栄養・食事管理	経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	品質の標準化	経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	マーケティングの原理	マーケティングⅠ (マーケティングの原理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	マーケティングの活用	マーケティングⅡ (マーケティングの活用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	HACCP システム	衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	危機管理対策	衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	雇用形態	給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	教育・訓練	給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	原価計算	給食の原価構成Ⅰ (原価計算)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	財務諸表	給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	まとめ	財務管理、その他	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目 「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。

担当者の研究室等 農学部 8 号館 2F 教員室 223

備考

科目名	給食経営管理実習	科目名 (英文)	Practice in Food Service Business Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦, 新名 洋美, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2061a0		

授業概要・目的	特定給食施設での給食業務について、「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を活かし、大量調理実習を体験し喫食者に適した食事の提供について栄養面、衛生面、経営面、施設・設備管理など、様々な側面から総合的に考え、自主的に計画・運営できる力を修得することを目的とする。具体的には、特定多数の喫食者に対し、適切な栄養・食事管理を行い、実際に食材の購入・準備から大量調理、食事と栄養情報の提供、提供後の評価・分析を行い、実践に即した能力を修得する。
到達目標	① 栄養士として業務全体のマネジメントが理解できる。 ② 各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成できる。 ③ 給食における栄養管理、帳票類が理解できる。 ④ 原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解できる。
授業方法と留意点	・ 班に分かれて各テーマに沿って課題解決に取り組む。 ・ 試作段階での疑問点をまとめておき、シミュレーション（模擬実習）で解消しておくこと。 ・ また早期に各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等を完成させ、教員へ提出すること。 ・ 1回あたり2コマ（180分授業）[4時間]×15回=計60時間の授業とする。
科目学習の効果（資格）	栄養士として業務全体のマネジメントが理解出来る。各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成出来る。給食における栄養管理、帳票類が理解出来る。原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解出来る。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、課題説明等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	献立作成	実習計画1（給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、献立の立て方等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	実習室、機器類	実習計画2（実習室案内及び機器類の説明、清掃、試作のための発注業務等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	大量調理	大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	大量調理と事務処理①	大量調理と事務処理①（試作、改善点の検討、評価・改善のための調査法、実習の全体評価等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	大量調理と事務処理②	大量調理と事務処理②（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、検食と保存食について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	大量調理と事務処理③	大量調理と事務処理③（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、作成作業工程について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	温冷配膳車運用方法	従来の提供方法と温冷配膳車提供方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	大量調理と事務処理④	大量調理と事務処理④（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、栄養教育媒体の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	大量調理と事務処理⑤	大量調理と事務処理⑤（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、アンケート用紙の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	大量調理と事務処理⑥	大量調理と事務処理⑥（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、提供管理について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	大量調理と事務処理⑦	大量調理と事務処理⑦（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、配膳作業について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	大量調理と事務処理⑧	大量調理と事務処理⑧（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、下膳と食器洗浄について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	大量調理と事務処理⑨	大量調理と事務処理⑨（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、清掃と点検について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	原価計算、損益分岐点分析	原価計算の演習、加重平均栄養成分表作成、損益分岐点分析の演習、小テスト	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目 「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食運営実習（校外）」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習記録ノート及び演習(40%)、実習への取り組み(30%)、定期試験(20%)、小テスト(10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	給食業務に必要な対応能力及び統率力を養える。			
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 本授業はオンライン（リアル方式）で実施します。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノートの書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。	
4	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。	
6	管理栄養士になるために	管理栄養士国家試験について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。	
7	管理栄養士になるために	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。	
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士の業務のうち、公衆栄養業務について学ぶ。	事前：行政栄養士について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。	
9	管理栄養士の仕事	管理栄養士の業務のうち、病院栄養業務について学ぶ。	事前：病院栄養士について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。	
10	管理栄養士の仕事	管理栄養士の業務のうち、事業所給食、研究所業務について学ぶ。	事前：給食について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。	
11	課題学習①	学習の進め方について各ゼミでレクチャーを受け、「レポートの書き方を修得する。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。	

	12	課題学習②	食と農にまつわる話題および課題分析を行う。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	13	課題学習③	学生自身が主体的な課題を設定して調査学修し、レポートにまとめる。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	課題学習④	学生自身が主体的な課題を設定して調査学修し、プレゼン資料をまとめる。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	最終発表とディスカッション	それぞれが発表を行い、ゼミ内でディスカッションする。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2021		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本年度は基礎ゼミナールはオンライン(リアル方式)でおこないます。 各ゼミナール詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDG s 1～17</p>			
到達目標	<p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABD による読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解すること</p>			
授業方法及び留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて、アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。本授業は原則として、対面授業として行われるが、新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業となる可能性もあるので、学部ポータルサイトや Teams の連絡用サイトの連絡事項に注意すること。 授業計画は以下の通りとなる。</p> <p>重要連絡事項：2021 年度の大学教養入門は、オンライン (リアル方式) で行いません。詳細は、大学教養入門の各クラスの担当教員から Teams の連絡用チャネルで連絡します。</p> <p>受講者は、指定された教科書を ABD 読書術に沿って、各テーマ毎に、割り当てられた箇所を読み、サマリーシートにまとめ、グループ全員が発表し、それらの発表内容を共有する。 次に、受講者は、1 限目で学習した内容について、ふりかえりをするために、新たに QFT (Question Formulation Technique) を用いて、質問作りを行う。授業で新たに学んだ内容について、各自が数多くの質問を作り、それらを書き出し、分類し、学修した内容についてグループ内で対話する。このワークで授業で学んだことを確認し、ふりかえりシートにまとめ、提出する。最後に、Moodle にアクセスし、理解度確認テストを行う。</p> <p>事前学習：受講者は授業日に学習する内容を読書し、重要な箇所の書き出しや不明な語句などを調べ、事前学習シートに記入し提出する。 事後学習：受講者は各授業日で学習した内容を、240～250 字以内でまとめ、事後学習シートに記入し提出する。</p> <p>授業時間中に Moodle へアクセスして理解度確認テストを受験する際、ICT ツールとしてスマホ若しくはタブレットを使用するため、それらを十分充電して持参する。</p> <p>※リーディングスキルテストの受験方法：このテストは初回と最終回の 2 回を Moodle で実施します。所要時間は 60 分ですので、時間の余裕のある時に受験してください。途中で中止することはできません。初回は 4 月 10 日 18:00 から 23 日 23:55 までに、最終回の受験期間については、決まり次第、皆さんに連絡します。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4 月 10 日 (9:20～11:00)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
	2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4 月 10 日 (11:10～12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
	3	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4 月 10 日 (13:20～16:30) ※リーディングスキルテスト (事後：初回)	チームビルディングの研修プログラム	※リーディングスキルテストの受験方法 「授業方法及び留意点」に明記 (初回と最終回：各 60 分実施)
	4	大学教養入門：「第 1 章 哲学」- I 4 月 24 日	教養を極める読書術 「第 1 章 哲学」- I 西洋哲学など 「西洋哲学」について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 (論理的思考と表現)	事前：「第 1 章 哲学」- I ①重要な箇所の書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、事前学習シートを作成する。
	5	大学教養入門：「第 1 章 哲学」- I	QFT の説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出	事後：「第 1 章 哲学」- I 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～

	4月24日	第4回の発表を基礎に、質問力、まとめ力を養う。	250文字で要約する。
6	大学教養入門：「第1章 哲学」-II 5月1日	教養を極める読書術「第1章 哲学」-II 東洋哲学など 「東洋哲学」について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 (論理的思考と表現)	事前：「第1章 哲学」-II ①重要な箇所を書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、事前学習シートを作成する。
7	大学教養入門：「第1章 哲学」-II 5月1日	QFTの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 第6回の発表を基礎に、質問力、まとめ力を養う。	事後：「第1章 哲学」-II 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～250文字で要約する。
8	大学教養入門：「第3章 歴史」-I 5月8日	教養を極める読書術「第3章 歴史」-I ヨーロッパなど	事前：「第3章 歴史」-I ①重要な箇所を書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、事前学習シートを作成する。
9	大学教養入門：「第3章 歴史」-I 5月8日	QFTの実践、ふりかえりシートの作成と提出	事後：「第3章 歴史」-I 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～250文字で要約する。
10	大学教養入門：「第3章 歴史」-II 5月15日	教養を極める読書術「第3章 歴史」-II 中国など	事前：「第3章 歴史」-II ①重要な箇所を書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、事前学習シートを作成する。
11	大学教養入門：「第3章 歴史」-II 5月15日	QFTの実践、ふりかえりシートの作成と提出	事後：「第3章 歴史」-II 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～250文字で要約する。
12	大学教養入門：「第2章 宗教」 5月22日	教養を極める読書術「第2章 宗教」	事前：「第2章 宗教」 ①重要な箇所を書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、事前学習シートを作成する。
13	大学教養入門：「第2章 宗教」 5月22日	QFTの実践、ふりかえりシートの作成と提出	事後：「第2章 宗教」 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～250文字で要約する。
14	大学教養入門 「SDGs (持続可能な開発目標)」 SDGsのゲームの実践 6月26日	「SDGs (持続可能な開発目標)」 SDGsのゲームの実践、ふりかえりシートの作成と提出 (3人で1チーム)	事前：「SDGs」および国際連合「The United Nations Academic Impact」 ①重要な箇所を書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
15	大学教養入門 国際連合「The United Nations Academic Impact」について ※リーディングスキルテスト(事後：最終回) 6月26日	国際連合「The United Nations Academic Impact」について 読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出	事後：「SDGs」および「The United Nations Academic Impact」について 事後学習シートに、授業で学修した内容を、240～250文字で要約する。 ※リーディングスキルテストの受験方法「授業方法と留意点」に明記(初回と最終回：各60分実施)

関連科目 摂南大学で開講されている科目すべて。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養を極める読書術-哲学・宗教・歴史・人物伝をこう読む-	麻生川静男著	ビジネス社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法(基準) リーディングスキルテスト(10%)、事前学習シート(10%)、事後学習シート(10%)、サマリーシートおよび発表(10%;ルーブリック評価)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(個人10%)、期末テスト(40%)

以上の評価点の合計で60%以上を合格する。

学生へのメッセージ この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。

担当者の研究室等 喜多 大三(農学部8号館2F 225) 松田 千登勢(看護学部7号館 研究室6)
大塚 正人(薬学部1号館5F) 長沢 美和子(看護学部7号館 共同研究室2)
藤林 真美(農学部8号館3F 323)
加藤 裕介(農学部8号館3F 304)

	戴 容秦思 (農学部 8 号館 2F 215) 藤井 毅 (農学部 8 号館 2F 204)
備考	

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、リアルタイムで授業動画を配信し、時間割どおりの曜日・時間で授業を遠隔で行うオンライン型にて実施します。講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す (1時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習 (1時間)
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し (1時間)
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習 (1時間)
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す (1時間)
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する (1時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習 (1時間)	

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	★第2回より、リアルタイムオンライン講義を実施する。使用ツール：Teams 講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入 文章の書き方1</td> <td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】説明文</td> <td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィードバック</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>課題1を見直す</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>引用の復習 意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【課題2】論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方1・2</td> <td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>フィードバック</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>課題2を見直す</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【レポート】</td> <td>レポートを提出する</td> <td>レポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートの講評 小テストの復習</td> <td>レポートについて講評する 小テストの復習テスト</td> <td>これまでの復習 小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――																																																																
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習																																																																
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習																																																																
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習																																																																
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習																																																																
7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習																																																																
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習																																																																
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習																																																																
13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す																																																																
14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する																																																																
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明	Unit 1 の予習
	2	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1	Unit 1 の精読	Unit 1 の予習、復習
	3	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2	Unit 1 の内容理解、議論	Unit 1 の復習 課題 (Unit 2 の予習)
	4	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1	小テスト (Unit 1 の語彙・文法) Unit 2 の精読	Unit 2 の予習、復習
	5	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2	Unit 2 の内容理解、議論	Unit 2 の復習 課題 (Unit 4 の予習)
	6	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1	小テスト (Unit 2 の語彙・文法) Unit 4 の精読	Unit 4 の予習、復習
	7	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2	Unit 4 の内容理解、議論	Unit 4 の復習 課題 (Unit 5 の予習)
	8	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1	小テスト (Unit 4 の語彙・文法) Unit 5 の精読	Unit 5 の予習、復習
	9	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2	Unit 5 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit1, 2, 4 の読解等)	Unit 5 の復習 課題 (Unit 7 の予習)
	10	Unit 7: Point Cards -1	小テスト (Unit 5 の語彙・文法) Unit 7 の精読	Unit 7 の予習、復習
	11	Unit 7: Point Cards -2	Unit 7 の内容理解、議論	Unit 7 の復習 課題 (Unit 8 の予習)
	12	Unit 8 Disaster Volunteers-1	小テスト (Unit 7 の語彙・文法) Unit 8 の精読	Unit 8 の予習、復習
	13	Unit 8 Disaster Volunteers-2	Unit 8 の内容理解、議論	Unit 8 の復習 課題 (Unit 9 の予習)
	14	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1	小テスト (Unit 8 の語彙・文法) Unit 9 の精読	Unit 9 の予習、復習
	15	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2	Unit 9 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 5, 7, 8 の読解等)	Unit 9 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% 80%の内訳 (課題: 30%、小テスト・まとめテスト: 60%、授業への取り組み: 10%)
-----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は e メールや Moodle を利用して対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1 : Volcanoes: (A) Mountains of Fire	火山に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.13 を読み、わからない単語を調べておく。P.13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
3	Unit 1 : Volcanoes: (B) Journey to the Center of the Earth Unit 2 : Families: (A) My Family	火山、家族に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.17、および P.23 を読み、わからない単語を調べておく。P.17、23 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
4	Unit 2 : Families: (B) Animal Families, Review 1: Kilimanjaro	動物の家族、キリマンジャロに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.27、および P.33 を読み、わからない単語を調べておく。P.27、33 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
5	Unit 3 : Amazing Feats: (A) The Long, Hard Road, (B) Building the Pyramids	古道、ピラミッドに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.39、および P.43 を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
6	Unit 4 : Big Ideas: (A) A New Building, (B) Big Ideas, Small Sizes	建築、発明に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.49、および P.53 を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
7	Review 2: The Great Wall of China, A Chinese Folktale: Meng Chiang-nu and the Great Wall	万里の長城、中国の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.58~59、および P.61 を読み、わからない単語を調べておく。P.58~59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
8	Unit 5 : Striking It Rich: (A) Winning the Lottery, (B) Fantastic Finds	宝くじ、発見に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.65、および P.69 を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
9	Unit 6 : Killer Plants: (A) Beautiful but Deadly, (B) A Plant Experiment	食虫植物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.75、および P.79 を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79 の文章を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。
10	Review 3: Central Amazon, A Brazilian Folktale: The Curupira	アマゾン、ブラジルの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.84~85、および P.87 を読み、わからない単語を調べておく。P.84~85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
11	Unit 7 : The Night Sky: (A) Light Pollution, (B) Our Solar System	光害、太陽系に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.91、および P.95 を読み、わからない単語を調べておく。P.91、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
12	Review 1 : A Tanzanian Folktale: The Rabbit and the Well, Reading aloud : The Hare and	タンザニアに関する文章を読む。寓話「うさぎとかめ」で音読練習。 文法(品詞、5文型)の学習。 英作文。	【事前学習】テキスト P.35 を読み、わからない単語を調べておく。P.35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習、「The Hare and the Tortoise」を音読。

	the Tortoise	ペアワーク。	
13	Unit 8 : The Olympics: (A) The Modern Olympics, (B) The Ancient Olympics	近代・古代のオリンピックに関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
14	Review 4 : Olympia Greece, A Greak Folktales: Persephone and the Return of Spring	オリンピア、ギリシャ民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110～111、および P. 112～113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110～111、112～113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
15	前期総復習	前期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Adventures 1	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%
--------------	---

学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです (文法・単語)。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります (リーディング)。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し (リスニング)、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります (スピーキング)。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身につけ、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室
--------------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第 2 講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1 : Secret World: (A) A Hidden World	新種の生物に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 13 を読み、わからない単語を調べておく。P. 13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
3	Unit 1 : Secret World: (B) The Lost World, Video: Exploring Congo	小説『失われた世界』に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 17 を読み、わからない単語を調べておく。P. 17 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
4	Unit 2 : Dangerous Jobs: (A) Firefighters, (B) Predicting the Weather	消防士、天気予報に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 23、および P. 27 を読み、わからない単語を調べておく。P. 23、27 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
5	Review 1 : Komodo Island, An Indonesian Folktale: A Legend of Komodo Island	コモド島、インドネシアの民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 32~33、および P. 35 を読み、わからない単語を調べておく。P. 32~33、35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
6	Unit 3 : Crystals: (A) Crystal Palace, (B) Crystal Skulls	水晶、考古学のミステリーに関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 39、および P. 43 を読み、わからない単語を調べておく。P. 39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
7	Unit 4 : Life on the Move: (A) Animal Migration, (B) Butterfly Migration	生物移動に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 49、および P. 53 を読み、わからない単語を調べておく。P. 49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
8	Review 2 : Tikal National Park, Guatemala, A Mayan Folktale: The King of the Birds	ティカル国立公園、マヤ族の民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 58~59、および P. 61 を読み、わからない単語を調べておく。P. 58~59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
9	Unit 5 : The Senses: (A) An Unusual Photographer, (B) Senses in Poetry	カメラマン、手話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 65、および P. 69 を読み、わからない単語を調べておく。P. 65、69 の文章を音読する。 事後学習 : 授業ノートを復習。
10	Unit 6 : Art: History and Mystery: (A) Stealing Mona Lisa, (B) Leonardo the Inventor	モナリザの盗難、レオナルド・ダ・ヴィンチに関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 75、および P. 79 を読み、わからない単語を調べておく。P. 75、79 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
11	Review 3 : Florence Italy, An Italian Folktale: A Happy Man's Shirt	フィレンツェ、イタリアの民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 84~85、および P. 87 を読み、わからない単語を調べておく。P. 84~85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
12	Unit 7 : Festivals: (A) A Korean Festival, (B) The	韓国とスペインの祭りに関する文章を読む。	【事前学習】テキスト P. 91、および P. 95 を読み、わからない単語を調べておく。P. 91、95 の文章を音

		Sun Also Rises	文法（品詞、5 文型）の学習。 英作文。 ペアワーク。	読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	13	Unit 8 : Heroes for the World: (A) Hero for the Planet, (B) Saving India's Forests	海洋生物学者のシルビア・アール、インドの森林保護に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Review 4 : Jantar Mantar India, An Indian Folktale: The Boy and the Drum	ジャンタル・マンタル、インドの民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110~111、および P. 113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110~111、113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	前期総復習	前期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Adventures 2	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験：50% ・平常点：30% ・課題：10% ・小テスト：10% <p>注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという4つの柱をバランス良く身につけ、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時 			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明	Unit 1 の予習
	2	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1	Unit 1 の精読	Unit 1 の予習、復習
	3	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2	Unit 1 の内容理解、議論	Unit 1 の復習 課題 (Unit 2 の予習)
	4	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1	小テスト (Unit 1 の語彙・文法) Unit 2 の精読	Unit 2 の予習、復習
	5	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2	Unit 2 の内容理解、議論	Unit 2 の復習 課題 (Unit 4 の予習)
	6	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1	小テスト (Unit 2 の語彙・文法) Unit 4 の精読	Unit 4 の予習、復習
	7	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2	Unit 4 の内容理解、議論	Unit 4 の復習 課題 (Unit 5 の予習)
	8	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1	小テスト (Unit 4 の語彙・文法) Unit 5 の精読	Unit 5 の予習、復習
	9	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2	Unit 5 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit1,2,4 の読解等)	Unit 5 の復習 課題 (Unit 7 の予習)
	10	Unit 7: Point Cards -1	小テスト (Unit 5 の語彙・文法) Unit 7 の精読	Unit 7 の予習、復習
	11	Unit 7: Point Cards -2	Unit 7 の内容理解、議論	Unit 7 の復習 課題 (Unit 8 の予習)
	12	Unit 8 Disaster Volunteers-1	小テスト (Unit 7 の語彙・文法) Unit 8 の精読	Unit 8 の予習、復習
	13	Unit 8 Disaster Volunteers-2	Unit 8 の内容理解、議論	Unit 8 の復習 課題 (Unit 9 の予習)
	14	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1	小テスト (Unit 8 の語彙・文法) Unit 9 の精読	Unit 9 の予習、復習
	15	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2	Unit 9 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 5,7,8 の読解等)	Unit 9 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 30% 小テスト、まとめテスト 60% 授業への取り組み 10%
学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は e メールや Moodle を利用して対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors-1	Unit 11 の精読	Unit 11 の予習、復習
2	Unit 11: More Foreign Visitors-2	Unit 11 の内容理解、議論	Unit 11 の復習 課題 (Unit13 の予習)
3	Unit 13: April Fools' Day in Japan-1	小テスト (Unit 11 の語彙・文法) Unit 13 の精読	Unit 13 の予習、復習
4	Unit 13: April Fools' Day in Japan-2	Unit 13 の内容理解、議論	Unit 13 の復習 課題 (Unit14 の予習)
5	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -1	小テスト (Unit 13 の語彙・文法) Unit 14 の精読	Unit 14 の予習、復習
6	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -2	Unit 14 の内容理解、議論	Unit 14 の復習 課題 (Unit16 の予習)
7	Unit 16: Valentine's Day in Japan-1	小テスト (Unit 14 の語彙・文法) Unit 16 の精読	Unit 16 の予習、復習
8	Unit 16: Valentine's Day in Japan-2	まとめテスト (Unit 11, 13, 14 の読解等) Unit 16 の内容理解、議論	Unit 11, 13, 14 の復習 Unit 16 の復習 課題 (Unit17 の予習)
9	Unit 17: Smartphone Lock Screens-1	小テスト (Unit 16 の語彙・文法) Unit 17 の精読	Unit 17 の予習、復習
10	Unit 17: Smartphone Lock Screens-2	Unit 17 の内容理解、議論	Unit 17 の復習 課題 (Unit18 の予習)
11	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	小テスト (Unit 17 の語彙・文法) Unit 18 の精読	Unit 18 の予習、復習
12	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	Unit 18 の内容理解、議論	Unit 18 の復習 課題 (Unit 20 の予習)
13	Unit 20: Translation Software-1	小テスト (Unit 18 の語彙・文法) Unit 20 の精読	Unit 20 の予習、復習
14	Unit 20: Translation Software-2	Unit 20 の内容理解、議論	Unit 20 の復習
15	Unit 16~Unit 20	小テスト (Unit 20 の語彙・文法) まとめテスト (Unit16, 17, 18, 20 の読解等) 速読 (Unit16, 17, 18, 20)	Unit16, 17, 18, 20 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / 委文 光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1: Predators and Prey: (A) Hiding from Danger	昆虫の擬態(カモフラージュ)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.13を読み、わからない単語を調べておく。P.13の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
3	Unit 1: Predators and Prey: (B) Spider Webs, Video: Spider Webs	蜘蛛の網に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.17を読み、わからない単語を調べておく。P.17の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
4	Unit 2: Bionics: (A) Remaking Humans, (B) Making Robots Human	人間工学、ロボット工学に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.23、およびP.27を読み、わからない単語を調べておく。P.23、27の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
5	Review 1: Tongariro National Park, A Maori Folktale: Maui and the Magic Fishhook	トンガリロ国立公園、ニュージーランドの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.32~33、およびP.35を読み、わからない単語を調べておく。P.32~33、35の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
6	Unit 3: Clues about the Past: (A) Earth's Beginning, (B) Deep Sea Vents	地球の黎明期、熱水噴出孔に生息する生き物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.39、およびP.43を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
7	Unit 4: Survival: (A) When Danger Is Near, (B) Survival at Sea	サバイバル技術、ニック・ワード著『Left for Dead』に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.49、およびP.53を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
8	Review 2: SGang Gwaay, A Haida Folktale: How the Raven Stole the Sun	スカン・グアイ、ハイダ族の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.58~59、およびP.61を読み、わからない単語を調べておく。P.58~59、61の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
9	Unit 5: Outer Space: (A) Saturn, (B) To the Moon	土星、アポロ計画に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.65、およびP.69を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69の文章を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。
10	Unit 6: The Power of Writing: (A) Writing around the World, (B) Why Do People Read?	文字の歴史、図書館学者のポストウィックに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.75、およびP.79を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
11	Review 3: The Bend of the Boyne, An Irish Folktale: Aonghus and Caer	ブルー・ナ・ポーニヤ、アイルランドの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。	【事前学習】テキストP.84~85、およびP.87を読み、わからない単語を調べておく。P.84~85、87の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。

			ペアワーク。	
12	Unit 7 : Lewis Carroll: (A) The Wonderland of Lewis Carroll, (B) Through the Looking Glass	ルイス・キャロルと『不思議の国のアリス』に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 英作文。 ペアワーク。		【事前学習】テキスト P.91、および P.95 を読み、わからない単語を調べておく。P.35、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
13	Unit 8 : Preserving Heritage: (A) Disappearing Languages, (B) The Hadza	言語の消失、タンザニアのハッザ族に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。		【事前学習】テキスト P.101、および P.105 を読み、わからない単語を調べておく。P.101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
14	Review 4 : Saryarka, A Kazakh Folktale: Aldar Kose and the Magic Coat	サリヤルカ、カザフスタンの民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。		【事前学習】テキスト P.110~111、および P.113 を読み、わからない単語を調べておく。P.110~111、113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
15	後期総復習	後期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。		【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Adventures 3	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 (最終課題の提出) 60% 授業への参加、貢献 (小テスト、宿題を含む) 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです (文法・単語)。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります (リーディング)。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し (リスニング)、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります (スピーキング)。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身につけ、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。 一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Chapter 1 : Understanding the True Cost of Food	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。 食材とその対価に関する文章を読む。	第 2 講に備え、テキストを購入。
2	Chapter 2 : The Modern vs. the Stone Age Diet	現代と石器時代の食生活を比較した文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.10~12 を読み、わからない単語を調べておく。P.10~12 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
3	Chapter 3 : Agriculture	農業に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.14~16 を読み、わからない単語を調べておく。P.14~16 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
4	Chapter 4 : Animal Domestication	家畜に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.18~20 を読み、わからない単語を調べておく。P.18~20 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
5	Chapter 5 : Life on the Farm	農場の生活に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.22~24 を読み、わからない単語を調べておく。P.22~24 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
6	Chapter 6 : The Kill	畜殺に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.26~28 を読み、わからない単語を調べておく。P.26~28 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
7	Chapter 7 : Case Study 1 : Meat	肉 (ケーススタディ 1) に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.30~32 を読み、わからない単語を調べておく。P.30~32 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
8	Chapter 8 : Case Study 2 : Corn	とうもろこし (ケーススタディ 2) に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.34~36 を読み、わからない単語を調べておく。P.34~36 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
9	Chapter 9 : Case Study 3 : Food from the Sea	魚介類 (ケーススタディ 3) に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.38~40 を読み、わからない単語を調べておく。P.38~40 を音読する。 事後学習 : 授業ノートを復習。
10	Chapter 10 : Preservatives and Culture	食材の保存に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.42~44 を読み、わからない単語を調べておく。P.42~44 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
11	Chapter 11 : Plant Domestication	野菜・果物栽培に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.46~48 を読み、わからない単語を調べておく。P.46~48 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
12	Chapter 12 : The Complexity of Taste	味覚・味付けに関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 英作文。	【事前学習】テキスト P.50~52 を読み、わからない単語を調べておく。P.50~52 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。

			ベアワーク。	
	13	Chapter 13 : Eating Oil	旬ではない食材の提供と、その対価である石油に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ベアワーク。	【事前学習】テキスト P.54～56 を読み、わからない単語を調べておく。P.54～56 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Chapter 14 : Meat's Impact on the Environment	肉と環境へのインパクトに関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ベアワーク。	【事前学習】テキスト P.58～60 を読み、わからない単語を調べておく。P.58～60 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	Chapter 15 : Conclusion 後期総復習	食に関するまとめの文章を読む。 後期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】テキスト P.62～64 を読み、わからない単語を調べておく。P.62～64 を音読する。期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Food: Some Deeper Insights into What We Eat	Paul Stapleton	Heinle Cengage Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（最終課題の提出）：70% ・平常点（授業への貢献、宿題、小テストを含む）：30% <p>注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという4つの柱をバランス良く身に付け、ぜひ英語で自分の世界を広げていってください。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時 			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors-1	Unit 11 の精読	Unit 11 の予習、復習
	2	Unit 11: More Foreign Visitors-2	Unit 11 の内容理解、議論	Unit 11 の復習 課題 (Unit13 の予習)
	3	Unit 13: April Fools' Day in Japan-1	小テスト (Unit 11 の語彙・文法) Unit 13 の精読	Unit 13 の予習、復習
	4	Unit 13: April Fools' Day in Japan-2	Unit 13 の内容理解、議論	Unit 13 の復習 課題 (Unit14 の予習)
	5	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -1	小テスト (Unit 13 の語彙・文法) Unit 14 の精読	Unit 14 の予習、復習
	6	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -2	Unit 14 の内容理解、議論	Unit 14 の復習 課題 (Unit16 の予習)
	7	Unit 16: Valentine's Day in Japan-1	小テスト (Unit 14 の語彙・文法) Unit 16 の精読	Unit 16 の予習、復習
	8	Unit 16: Valentine's Day in Japan-2	まとめテスト (Unit 11, 13, 14 の読解等) Unit 16 の内容理解、議論	Unit 11, 13, 14 の復習 Unit 16 の復習 課題 (Unit17 の予習)
	9	Unit 17: Smartphone Lock Screens-1	小テスト (Unit 16 の語彙・文法) Unit 17 の精読	Unit 17 の予習、復習
	10	Unit 17: Smartphone Lock Screens-2	Unit 17 の内容理解、議論	Unit 17 の復習 課題 (Unit18 の予習)
	11	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	小テスト (Unit 17 の語彙・文法) Unit 18 の精読	Unit 18 の予習、復習
	12	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	Unit 18 の内容理解、議論	Unit 18 の復習 課題 (Unit 20 の予習)
	13	Unit 20: Translation Software-1	小テスト (Unit 18 の語彙・文法) Unit 20 の精読	Unit 20 の予習、復習
	14	Unit 20: Translation Software-2	Unit 20 の内容理解、議論	Unit 20 の復習
	15	Unit 16~Unit 20	小テスト (Unit 20 の語彙・文法) まとめテスト (Unit16, 17, 18, 20 の読解等) 速読 (Unit16, 17, 18, 20)	Unit16, 17, 18, 20 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / 委文 光太郎	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題 30% 小テスト、まとめテスト 60% 授業内の発表、取り組み 10%
----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	科目学習の効果 (資格) : TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業方針説明	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	2	Unit1	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	3	Unit2	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	4	Unit3	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	5	Unit4	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	6	Unit5	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	7	Unit6	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	8	Unit7	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	9	Unit8	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	10	Unit8; Discussion	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	11	Unit9	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	12	Unit9: Discussion	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	13	Unit10	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	14	Unit10: Discussion	講義 単語学習	演習、授業参加態度
	15	Unit10-11: Discussion	講義 単語学習	演習、授業参加態度

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	SEIBIDO 成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 演習・課題 80%
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	辞書必携
-----------	------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	This class is going to help you improve your English. You are going to learn language and skills to help you. Specifically, you're going to be improving all four skills: reading, writing, speaking, and listening.
到達目標	Everyone will be able to participate in a 15-minute conversation with two or three other people.
授業方法と留意点	You'll be working together with your classmates during each lesson, and outside of class you'll have homework to complete each week. There will be a quiz after each unit of the textbook, and two exams during the course.

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction Language of Control	explanation of the course useful language for getting hep in English	N/A
2	Unit 1: Making Friends	language for meeting new people	homework assigned in class
3	Unit 1: Making Friends	language for meeting new people	homework assigned in class
4	Unit 1: Making Friends	language for meeting new people	homework assigned in class
5	Unit 1 Quiz Unit 2: Interests	language to describe things you're interested in	study for the quiz
6	Unit 2: Interests	language to describe things you're interested in	homework assigned in class
7	Unit 2: Interests	language to describe things you're interested in	homework assigned in class
8	Unit 2 Quiz Mid-term Test	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test
9	Unit 4: Celebrations	language to talk about special days in people's lives	homework assigned in class
10	Unit 4: Celebrations	language to talk about special days in people's lives	homework assigned in class
11	Unit 4: Celebrations	language to talk about special days in people's lives	homework assigned in class
12	Unit 4 Quiz Unit 6: Around Town	language to talk about different places in towns and cities	study for the quiz
13	Unit 6: Around Town	language to talk about different places in towns and cities	homework assigned in class
14	Unit 6: Around Town	language to talk about different places in towns and cities	homework assigned in class
15	Unit 6 Quiz Final Exam	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Touchstone Level 2, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Participation 10% Homework 20% Quizzes 20% Mid-term Exam 20 % Final Exam 30%
-----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	科目学習の効果(資格): TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	2	Unit11	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	3	Unit12	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	4	Unit12: Discussion	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	5	Unit13	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	6	Unit14	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	7	Unit15	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	8	Unit16	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	9	Unit 17	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	10	Unit17: Discussion	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	11	Unit18	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	12	Unit18: Discussion	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	13	Unit19	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
	14	Unit20	講義(講義室) 単語学習	課題提出、授業内臨時試験 全学共通英語課題
		15	定期試験	講義(講義室)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 課題提出 50% 授業内臨時試験 20% 30%
----------	---

学生へのメッセージ	辞書必携
-----------	------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。
----	--

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ソーレン カー
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	This class is going to help you improve your English. You are going to learn language and skills to help you. Specifically, you're going to be improving all four skills: reading, writing, speaking, and listening.
到達目標	Everyone will be able to participate in a 20-minute conversation with two or three other people.
授業方法と留意点	You'll be working together with your classmates during each lesson, and outside of class you'll have homework to complete each week. There will be a quiz after each unit of the textbook, and two exams during the course.

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Welcome back! Language of Control	explanation of the course review of language for getting hep in English	N/A
	2	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	3	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	4	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	5	Unit 7 Quiz Unit 8: At Home	language to describe things in your home	study for the quiz
	6	Unit 8: At Home	language to describe things in your home	homework assigned in class
	7	Unit 8: At Home	language to describe things in your home	homework assigned in class
	8	Unit 8 Quiz Mid-term Test	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test
	9	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	10	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	11	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	12	Unit 11 Quiz Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	study for the quiz
	13	Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	homework assigned in class
	14	Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	homework assigned in class
15	Unit 12 Quiz Final Exam	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone Level 2, second edition	McCarthy, McCarten, Sandiford	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Participation 10% Homework 20% Quizzes 20% Mid-term Exam 20 % Final Exam 30%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	
----	--

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 オンライン授業への移行にともない、授業方法は Microsoft Teams および Web Folder を使用する。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、3回の総合演習課題など (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)			
備考	授業時間内における質問は Teams で対応します。授業時間外での質問等はメールを使用してください (即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応をいたします)。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。 遠隔講義時の対応は、各自 Webfolder で教材をダウンロードしてもらい、Teams で各回の講義動画資料を見ながら演習課題を解いてもらう。講義時間中の質疑応答は Teams にてリアルタイム対応する。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			<p>アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する 図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する</p>	
7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	<p>区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	<p>複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	<p>データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	<p>データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する</p>	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）	
15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）	
関連科目	情報リテラシー I			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)			
備考	授業時間外の質疑応答については、Teams のチャット機能で対応いたします。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本科目では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進をはかる②運動技能を向上させることができる③マナーやルールを理解することができる④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法及び留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。 使用する ICT ツールは「Microsoft Teams」とする。 なお対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			ルールを理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
3	体力測定②	体力測定 屋内種目 (体育館)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。 (事前事後学習時間 30 分)
5	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
11	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り (事前事後学習時間 30 分)

関連科目	解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% (対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25%) 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 323 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teamsを用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室) コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分)
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
10	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
11	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分)

関連科目	解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学
教科書	研究

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Teams と Moodle を用いた遠隔授業を行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきて A4 1枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。	教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第4章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第6章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第7章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	意識と行動、遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の変化、発達障害について解説します。	教科書の第2章と第3章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クレーの共変動モデルについて解説します。	教科書第9章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因について解説します。	教科書第9章9.5を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	社会的促進、社会的手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学 [第5版補訂版]</td> <td>鹿取廣人など</td> <td>東京大学出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
評価方法 （基準）	【授業内小テスト】50% 【授業内課題】30% 【教科書などを用いた課題（小レポート）】20%			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 新型コロナウイルス感染拡大の対策として、私語が禁止です。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的
「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためではないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいて知っているながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないとしたら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある(人によっては常に考えている)ことなのではないかと思えます。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差別、ジェンダー等)に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張がなされてきたかを学びます。また、それらと対照することで自分自身のコンセンサス(常識)を自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な視点を身に付ける。
2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題に答えてもらいます。
【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習: なし 復習: なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題(哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い)がある場合は、それを読み、選択問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めるとどうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことができるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理学に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいかになるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで	ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業毎の課題（インターネット経由で提出）：70%（Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）。第 1 回目は授業資料、課題共にありません） 期末試験（インターネット経由で提出）：30%		
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。		
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	古代哲学 (1)	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	古代哲学 (2)	ソクラテスのイデア論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	古代哲学 (3)	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	自然科学の発展	ガリレオの自然の数学化を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	認識論 (1)	デカルトの「我思う故に我在り」を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	認識論 (2)	ロックの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	認識論 (3)	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	心と物 (1)	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	心と物 (2)	唯物論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	心と物 (3)	フッサールの志向性分析を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	人間の生きる世界 (1)	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	人間の生きる世界 (2)	ハイデガーの根本気分を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	人間の生きる世界 (3)	バシュラールの夢を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫
	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書
	3			

評価方法 (基準)	学期末のレポート50%、毎回の授業内課題(コメント)50%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。 第5回から対面授業に切り替える。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内で実施する試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館2階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールで受け付ける。
------------	---------------------------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	人文地理学の様々な研究成果や事例を通して、私たちが生きる現実世界すなわち身近なものから現代世界・社会の様々な現象や課題を地理学的な発想から捉え直し、解決に向けて取り組む視点、知識、発想の習得を目指す。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などのような地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) オンライン
2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) オンライン
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
15	まとめ	授業の総括	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド

関連科目	「自然地理学」「地誌学」
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)			
学生への メッセージ	<p>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</p> <p>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</p> <p>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</p> <p>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	授業外の質問等については、メールにて対応する。メールアドレスは dankebitte0605@gmail.com			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村口 進介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 『源氏物語』を中心に、平安時代の古典文学作品を「研究」の観点からあらためて読み直す。 『源氏物語』をはじめとした平安文学の代表作の読解を通して、個々の作品の世界観や文学史的な位置づけを理解し、古典文学における「ことばの論理」や展開のパターンなどを学び、現代の文学や物語にも通じる平安文学の世界を学ぶ。
到達目標	現代語訳を介さず、「古文」を「古文」のまま読むことに親しみ、紫式部や清少納言、光源氏などの「見ぬ世の人を友とする」(『徒然草』13段)。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を録音した音声ファイルとPDFをMoodleへアップロードし実施。
科目学習の効果 (資格)	いま観たり、読んだりしている小説やマンガや映画への理解度がさらに深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
1	イントロダクション	授業の概要と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
2	桐壺巻と『更級日記』	<ul style="list-style-type: none"> 光源氏の誕生と物語への耽溺 表現の工夫を学ぶ 	参考文献&図書を読み理解を深める。
3	帯木巻と『落窪物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件1 雨夜の品定めと手紙の機能 	参考文献&図書を読み理解を深める。
4	夕顔巻と『宇治拾遺物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語のパターン 物語と禁忌 (タブー) との関わり 	参考文献&図書を読み理解を深める。
5	若紫巻と『紫式部日記』	垣間見から始まる恋	参考文献&図書を読み理解を深める。
6	末摘花巻と『古本説話集』	・紅鼻の戯れと平中	参考文献&図書を読み理解を深める。
7	紅葉賀巻と『建礼門院右京大夫集』	・和歌の修辞 (枕詞、序詞、掛詞) を学びなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。
8	花宴巻と『六百番歌合』	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の活用法 贈答歌の作法 	参考文献&図書を読み理解を深める。
9	葵巻と『蜻蛉日記』	<ul style="list-style-type: none"> 贈答歌の機能 平安時代の結婚 (通い婚) の実態 	参考文献&図書を読み理解を深める。
10	賢木巻と『枕草子』	平安時代の社会制度	参考文献&図書を読み理解を深める。
11	須磨巻と『栄花物語』	道隆家の悲劇	参考文献&図書を読み理解を深める。
12	明石巻と『うつほ物語』	平安時代の教養と音楽	参考文献&図書を読み理解を深める。
13	滯標巻と『源順集』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件2 漢詩文の影響 	参考文献&図書を読み理解を深める。
14	絵合巻と『竹取物語』	物語文学の伝統	参考文献&図書を読み理解を深める。
15	まとめ	授業で取り上げた作品を文学史的に捉えなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。またこれまでのプリントをまとめる。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (ミニレポートや小テスト) 30%、学期末レポート70%
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳が目的ではないので、文法の話はほとんどしません。 時にはジブリやマーベル、鬼滅の刃などの話も交えつつ、「物語」について、みなさんと考えたいと思います。
担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片 雪蘭
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身に着ける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。
到達目標	以下三点について修得することを到達目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文化の違いを知り、他文化の人々と接するときの基本的な態度を身につける ・自分が当たり前だと考えてきた物事を、新たに客観的な視点から観察できるようになる ・文化人類学の基礎的な考え方をを用いて、自らの文化を相対的にとらえ直す視点を身につけることができる。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則オンデマンド形式で行います。 ・授業ではある文化の実践を映した映像や画像を共有する場合があります (オンライン授業の場合は、Youtube 映像を共有)。その文化に属さない者にとってときに「不愉快」や「残酷」と見えることがある。そうした偏見を乗り越えることを目的とする講義ではあるものの、予め留意しておくこと。 ・毎回、コメント・シートを提出する必要がある。コメントや質問に対するフィードバックは、次回の授業である。 ・教科書は不要。毎回、教材を TEAMS で共有するので、各自ダウンロードすること。

科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション		シラバスを読んでおく
	2	異文化を知るための方法(1)	文化人類学の誕生と歴史	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	3	異文化を知るための方法(2)	フィールドワークと民族誌	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	4	食と生業(1)	食べるとはどのようなことか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	5	食と生業(2)	食料獲得のさまざまなやり方	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	6	家族と親族(1)	家族になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	7	家族と親族(2)	世界のさまざまな家族のかたち	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	8	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	「女らしさ」「男らしさ」	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	9	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第三の性	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	10	儀礼(1)	通過儀礼 — 別な私になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	11	儀礼(2)	死とはなんだろうか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	12	贈与と売買(1)	贈り物をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	13	贈与と売買(2)	お金と市場	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	14	グローバル化の人類学(1)	観光と開発をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	15	グローバル化の人類学(2)	移民と難民	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化人類学の思考法	松村圭一郎・中川理・石井美保編	世界思想社
	2	21世紀の文化人類学	前川啓治・箭内匡ほか著	新曜社
	3	ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ	川口幸大	昭和堂

評価方法 (基準)	期末レポート 70% (定期試験からレポートに変更) コメント・シート 30% (授業への参加度等を総合的に評価。Teams で提出)
-----------	--

学生へのメッセージ	対面からオンラインに変更されましたが、シラバスの内容は変わりません。レポートの課題については、授業の時に説明します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。 ※4月22日以降はオンライン授業となります。詳細はTeamsにてご連絡いたします。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探すレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人々には〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO（非営利団体）の職員が報酬を受け取っていることやNPOに寄付したものがそのまま困っている人々への支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ

			<p>これまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復</p>

				習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	並木 州太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

【授業概要】
 グローバル経済、知識経済の時代である現代において、日本経済は急激かつ大幅な変化の渦中にあります。変化の過程においては、様々な経済・社会・環境問題が発生し、それらは私たちの生活とは一見無縁のようであり、密接に関わり合っています。経済学の基本的な考え方を学び、現象を理解し、対処する力を身につける事は、現代社会において役割を担う私達にとって欠かすことのできない能力です。本講義は、経済学の基本的な考え方を身につける事を目標としますが、グローバル経済や知識経済という現代経済の動向、そのもとの日本経済の課題と展望を踏まえた、現実感あふれる内容を題材にして進めていきます。

到達目標
 1. 経済学の基礎的な概念・キーワードについて理解できる。
 2. それらを用いて現実のさまざまな経済・社会・環境問題を読み解く力を身につけることができる。

授業方法と留意点
 この授業は講義と教員とのディスカッションを中心に行います。授業では日本経済新聞や日経ビジネスの記事を使用しますので、書店や図書館等で入手して、気になったトピックを読む習慣をつけましょう。
 この授業は原則対面で行いますが、緊急事態宣言の発出等により、遠隔授業に切り替わる可能性があります。その際の手順等については別途案内しますので、安心して受講してください。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済学と私達の生活の関係について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：シラバスを確認すること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
2	経済循環を学ぶ: 古典派経済学とマルクス	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
3	シュンペーターと経済発展の理論	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
4	価値と分配の理論: 価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
5	需要と供給: 需要曲線、供給曲線について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
6	ケインズ入門: 有効需要の原理とは何か	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
7	制度派経済学: 制度(法律や慣習、罰則)を重視する経済学の系譜	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
8	地域経済と地域経済政策: 地域の経済発展を考える	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
9	戦後の日本経済史: 高度経済成長の背景	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
10	労働市場の構造変化と格差問題	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
11	政府の役割: 市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
12	人口減少と社会保障制度	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
13	ベンチャー企業や起業家の役割: 社会起業家に注目して	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
14	ポスト資本主義社会を考える: これからの私達が生きる社会	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
15	まとめ: これまでの講義の振り返り	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)

	り返り	る講義。	ス等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論〈第2版〉	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、講義期間中に実施する小テスト/レポート 70%。(60%以上で合格) (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	私達の身の回りには、経済用語が溢れています。それらの用語の背景にある理論に触れ、エッセンスを持ち帰り、自らの働き方や社会との関わりを考えるヒントにしてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることができません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジюме・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジюмеを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社																	
2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」で、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、社会人として、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法(1)-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法(2)-親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法(1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法(2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。社会人として知らないではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習 (教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習 (講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習 (講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	--

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。 この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。 身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実を生じる物事を考える姿勢を身に付ける 実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る 複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く 専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。 2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。 「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

科目学習の効果 (資格)	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習2時間、事後学習2時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習2時間、事後学習2時間。
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習2時間、事後学習2時間。
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜSDGsは注目されるのかについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社 (LCC) について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
12	観光業の環境分析	観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
15	これまでのまとめ	テストを実施します (1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまで学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
評価方法 (基準)	テスト 50%、5 回の課題レポート 50%			
学生への メッセージ	本授業では、観光学に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5 回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12 時 30 分~13 時 10 分) stellakim0217@gmail.com			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。オンライン授業方法の詳細は、第2回授業の中で説明します。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎(1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎(2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	新しい人権	講義	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

		自己決定権	新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	<p>びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	14	平和主義	<p>講義</p> <p>戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	15	憲法改正の諸問題まとめと復習	<p>講義</p> <p>憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間）</p> <p>事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）</p>																
関連科目	法学入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタディ憲法</td> <td>曾我部真裕 他</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法（第7版）</td> <td>芦部信喜</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）40%と、期末試験（レポート、他）60%によって、総合的に評価します。詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。																			
学生へのメッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。																			
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																			
備考	各授業の最後に実施する課題については、次の授業で解説します。参考文献は、授業の中で、随時紹介します。																			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。なお、期末試験についてはCOVID19感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	友枝 : 寝屋川学舎3号館3階(学期途中で5号館1階へ移転予定)(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微分積分の押さえどころ	辻川享・大塚浩史・出原浩史・伊藤翼・矢崎成俊	学術図書出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。 なお、期末試験については、COVID-19による感染状況次第では、レポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義と各種のワークを取り混ぜて行う。オンライン授業はTeamsを用いたリアルタイム形式で行う。対面授業でグループワークを行う場合は、学生は複数の講義室の決められた席に着席する。その場合は、教員は各講義室を往き来して指導するほか、ビデオ中継によって各講義室を連結して授業を進める。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ヒトゲノム	これから始まる授業の中で、あなたの命、あなたと関係の深い人の命、あなたの命を支える沢山の多様な命、そして農業生産と命、それらの関係をどのように位置づけていくのかを学ぶ。また、毎回の授業を受ける際に必要な準備などについても説明する。 ・ゲノム情報について知る。 ・ヒトのゲノム情報に関わる具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (1, 3章) 授業中に小テストを行う。 事後学習：事後レポート
2	環境倫理	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について考える。	事前学習：テキストの予習 (30章) と小テスト 事後学習：事後レポート
3	バイオテクノロジー (1)	・新しいバイオテクノロジーの社会的受容に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (2章) と小テスト、事前講義の視聴 事後学習：事後レポート
4	バイオテクノロジー (2)	・ゲノム編集技術に関する具体的課題について考える。	事前学習：事前配布資料について的小テスト 事後学習：事後レポート
5	ヒトの死について	・医療資源の配分、脳死と臓器移植に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (9, 11章) と小テスト 事後学習：事後レポート
6	患者の権利と個人の尊厳について	・インフォームド・コンセントに関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (16章) と小テスト 事後学習：事後レポート
7	患者の意思決定と QOL (quality of life)	・医療倫理の四原則に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (18章) と小テスト 事後学習：事後レポート
8	安楽死・尊厳死、終末期医療	・安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (14, 15章) と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食のプロセスについて	・食のプロセスについて知る。 ・食のプロセスについて関わる具体的な課題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
10	食の安全性について	・食料の安全保障について知る。 ・食の安全性保障に関する具体的な倫理的課題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
11	食と健康について	・食べ物のリスクと安全性をどのように理解し評価するかについて、その問題点を知る。 ・食べ物と健康についての様々な倫理的な観点から理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
12	ヒト以外の生命 1: 伴侶動物とペット産業	・動物の生命と愛護について考える。 ・伴侶動物の生と死、ペット産業などについて学び、理解を深める。	前学習：テキストの予習 (21章) と小テスト 事後学習：事後レポート
13	ヒト以外の生命 2: 野生動物と産業動物	・野生動物と産業動物の生命を考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 事後学習：事後レポート
14	ヒト以外の生命 3: 社会文化と生命	・文化と生命観の関係を考える。 ・ヒトの生活や産業と生命の関係について理解を深める。	事前学習：テキストの予習 (23, 24章) と小テスト 事後学習：事後レポート
15	ヒト以外の生命 4: 私たちの生活と生命の関係を考える	・ヒトの生活と生命の様々な関係について、事前課題を通じて考えた意見を交換し、理解を深める。	事前学習：事前課題に取り組む 事後学習：事後レポート

関連科目 生物学、生物学演習、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著	教育出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を50点に換算し、授業内の成果物や事後レポートなどを50点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	岩崎 綾乃 薬学部・薬学科 1号館4階：岩崎講師室	椎名 隆 応用生物科学科 8号館3階：303号室	喜多 大三 食品栄養学科 8号館2階：225号室	小保方潤一 応用生物科学科 8号館3階：301号室
備考				

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮寄 英寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	本講義では、世界の環境問題と生態系の構造を俯瞰的にみることで、それらの基礎知識を習得することを目的とする。加えて、実際に生じている世界の環境問題を様々な事例研究を解説し、地域社会の特徴とそれが抱える諸問題から共通点と相違点についての考察を深めてもらいます。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて環境問題の問題発見と解決策を模索します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明できる。 ・日本だけではなく世界各地域特有の状況から、これからの環境問題のあり様について考えを述べるができる。 ・日々の暮らしの中で生物と環境に関する気づきや発見を得る喜びを持つようになる。
授業方法と留意点	講義は主に PPT や映像を用いておこないます。 受講者によるグループワーク、個別・グループプレゼンテーションなどを実施します。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画、採点方法に関する説明	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
2	基礎知識の習得 1	気候、農業、資源	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
3	基礎知識の習得 2	環境・生態と人々の暮らし	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
4	基礎知識の習得 3	環境問題、生物多様性と生態系サービス	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
5	生物と環境のかかわりを学ぶ 1	西アフリカ、ブルキナファソにおける事例研究から (砂漠化・農牧混交)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
6	生物と環境のかかわりを学ぶ 2	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 1 (レジリアンス・気候変動)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
7	生物と環境のかかわりを学ぶ 3	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 2 (食料安全保障・貧困削減)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
8	生物と環境のかかわりを学ぶ 4	南アジア、インドにおける事例研究から その 1 ラージスターン (気候変動・移動牧畜)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
9	生物と環境のかかわりを学ぶ 5	南アジア、インドにおける事例研究から その 2 タミル・ナドゥ (気候変動・外来生物)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
10	生物と環境のかかわりを学ぶ 6	中東、アラブ首長国連邦における事例研究から (国際労働移動・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
11	生物と環境のかかわりを学ぶ 7	東南アジア、ラオス・ミャンマーにおける事例研究から (農村開発・都市開発)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
12	生物と環境のかかわりを学ぶ 8	東南アジア、インドネシアにおける事例研究から (貧困削減・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
13	総合討論 1	これからの生物と環境について考えよう (個人あるいはグループ討論)	講義中に出す課題レポート 発表準備
14	総合討論 2	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備
15	総合討論 3	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義への参加姿勢 (発言) (30%)、リアクションペーパーと各講義中に出す課題レポート (30%)、グループワークとプレゼンテーション (40%) で評価します。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、コロナ禍の観点から Teams を用いたリアルタイム型講義を行うが、収束が見込まれた折には対面による講義に戻す可能性もあるので、連絡を確認すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：摂南大として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	1. 2020年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	10月11日より対面にて実施。講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・これまでの大学生活で経験したことを思い出ししておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講義では基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	当面はリモートの受講形式となります。(今後は状況により変更の可能性はあります) 初回の授業は Teams の一般チャネルの会議にて授業方法について説明しますので、受講希望者は必ず参加してください。 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロ・実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計算で解く文章題①	方程式・割合と比：割合と比 (第1, 2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計算で解く文章題②	割合の応用問題 (第2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計算で解く文章題③	損益算 (第3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計算で解く文章題④	速度算 (第4章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題復習	定着問題 (第5章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	まとめと中間テスト	まとめ 中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
	8	思考力・応用力が必要な問題①	集合 (第6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	9	思考力・応用力が必要な問題②	場合の数 (第7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	思考力・応用力が必要な問題③	確率 (第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	思考力・応用力が必要な問題④	表の読み取り① (第9, 10章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	思考力・応用力が必要な問題⑤	表の読み取り② (第10, 11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	思考力・応用力が必要な問題⑥	推論① (第12, 13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	思考力・応用力が必要な問題⑦	推論② (第13, 14章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	15	論理問題復習	定着問題 (第15章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！ 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部 数学テキスト編集チーム	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%、その他授業態度等により総合的に判断します。
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	1F 講師室 (対面の場合)
備考	本人確認のため、メールで連絡する際には大学のアドレスから送信してください。

科目名	給食運営実習(校外)	科目名(英文)	Field Practice in Food Service(Off-Campus)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3064a0		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>特定給食施設における栄養士・管理栄養士の役割や業務を理解するために、病院、学校、給食センター、介護福祉施設、事業所等で給食業務を体験し、施設の特性や喫食者に応じた給食の提供方法を修得することを目的とする。具体的には、喫食者の状況に応じた食事の計画や調理を含めた給食サービス提供を実際に体験し学ぶことにより、各施設における栄養士・管理栄養士としての業務について必要な知識、技能・能力を修得し、実践力を高めることをめざす。また、事前学習で計画した自らの課題に沿った実習を行い、実践力を高め、自発的に取り組む能力を修得する。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目</p> <p>[実習目的]</p> <p>特定給食施設における給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>① 特定給食施設における栄養士の役割を理解する。</p> <p>② 特定給食施設における栄養士業務全般について、必要な知識、技能・能力を身につける。</p> <p>③ 特定給食施設における喫食者の特徴を理解でき、自らの課題に自発的に取り組むことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>[実習内容]</p> <p>特定給食施設における食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。</p> <p>1-1. 給食運営について理解する</p> <p>1-2. 献立作成について</p> <p>1-3. 給食費について</p> <p>1-4. 材料発注について</p> <p>1-5. 検収について</p> <p>1-6. 食数管理について</p> <p>2-1. 調理作業について</p> <p>2-2. 配膳・提供方法について</p> <p>[実習場所]</p> <p>大阪府内の事業所、福祉施設、その他。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>2年次後期授業終了後、原則2～3月に特定給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)において、1週間(45時間)の給食運営実習を行う。</p> <p>① 実習の目的・目標・学ぶ姿勢について指導を受ける。</p> <p>② 実習施設ごとに事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせを行う。</p> <p>③ 実習施設ごとにオリエンテーション(実習計画・実習施設概要・留意事項等)を受ける。</p> <p>④ 実習施設についての理解(組織・運営)を深める。</p> <p>⑤ 食材料管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑥ 作業管理・業務分担の把握・考察を行う。</p> <p>⑦ 安全・衛生管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ。</p> <p>⑨ 施設毎の実習報告を行う。</p> <p>[実習計画]</p> <p>第1週</p> <p>月曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)オリエンテーション(施設の概要と特徴説明等)(学習内容・午後)オリエンテーション(栄養部門業務の概要、栄養部門給食運営の概要説明等)</p> <p>火曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)給食業務・帳票の解説・閲覧、衛生管理の在り方(学習内容・午後)学生各自のテーマ別情報収集(1)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>水曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)検収作業、調理業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問、学生各自のテーマ別情報収集(2)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>木曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)盛付・配膳業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問(アンケート調査)学生各自のテーマ別情報収集(3)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>金曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)アンケート調査結果の意見交換、コンピュータ管理の実務経験(学習内容・午後)学生各自のテーマ別結果まとめ、テーマ:給食業務についての調査項目、実習成果報告会・反省会</p>																
関連科目	「給食経営管理論I」「給食経営管理論II」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地(校外)実習ノート</td> <td></td> <td>臨地実習委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地(校外)実習ノート		臨地実習委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地(校外)実習ノート		臨地実習委員会														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック(第3版)</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版														
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、実習記録)、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	給食業務に必要な対応能力や他職種連携能力が身に付く。																
担当者の研究室等備考	農学部 8号館 2F 教員室 223																

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ・鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬 (11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬 (2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月~10月中旬 (3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしない限りはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとつての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等 備考	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで		